

人間生活学科

医療事務情報コース

1年

《専門教育科目》

科目名	医療管理総論				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-20 (技能) プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

医療の成立における社会資源の必要性を理解し医療資源として、医療提供に係る「人的資源」「物的資源」「財的資源」「情報資源」を具体的に理解する。わが国の医療制度を理解し、人口推移を包含した地域医療構想、医療計画を理解する。わが国の医療提供体制、医療保険制度の特徴と、医療に関連する法規定を学習し、診療情報管理士の役割や医療実務に対応するための知識を充実させる。

《授業の到達目標》

- ① 医療提供にかかわる医療資源が具体的に理解できる。
- ② 日本の医療制度と地域医療構想や医療計画が理解できる。
- ③ 医療需要と供給体制の構造を理解できる。
- ④ 医療関連の法規定の意義と内容が理解できる。

《成績評価の方法》

期末試験 (60%)
 受講態度・課題提出状況など (10%)
 アクティブラーニング (30%)
 《学生へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ」(日本病院会)

《参考図書》

新医療秘書実務シリーズ「⑥DPCの基礎」「④改訂医療関連法規」「③改訂医療情報管理」「②病院のマネジメント」「①医療概論」(建帛社)「病院経営のイノベーション」(建帛社)その他、必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。(15分)
 事後学修：教科書を参考に、小テスト、復修問題を解き、理解に繋げる (15分)

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、積極的に情報収集する必要がある。実務家教員による授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療資源①	医療資源である物的資源、人的資源について学ぶ
2	医療資源②	医療資源である財的資源、情報資源について学ぶ
3	日本の医療制度①	医療保障について学ぶ 医療制度の詳細について学ぶ
4	日本の医療制度②	国民医療費の現状と将来について学ぶ ディスカッション・プレゼンテーション
5	医療の需要と供給①	人口の推移について学ぶ ディスカッション・プレゼンテーション
6	医療の需要と供給②	医療需要・医療供給について学ぶ 顕在需要と潜在需要について学ぶ
7	地域医療(医療供給体制)①	地域医療について学ぶ ディスカッション・プレゼンテーション
8	地域医療(医療供給体制)②	地域医療の提供構造について学ぶ
9	地域医療(医療供給体制)③	地域医療計画について学ぶ ディスカッション・プレゼンテーション
10	医療関連の法規定①	医療と保健衛生活動に関する法規について学ぶ 社会保障や保健および福祉に関する法規について学ぶ
11	医療関連の法規定②	医療費支払い保健制度に関する法規について学ぶ 病院の医療活動に関する主な法規について学ぶ
12	医療関連の法規定③	感染症法について学ぶ 医薬品などに関する法規について学ぶ
13	医療関連の法規定④	災害時に適用される法規について学ぶ 職員に関する法規について学ぶ
14	医療関連の法規定⑤	がん対策基本法・がん対策推進基本計画について学ぶ 個人情報の保護に関する法律・ガイドラインについて学ぶ
15	まとめ	1～14の総まとめ

《専門教育科目》

科目名	臨床医学総論				
担当者氏名	宇野 久光、作間 俊治				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21 (技能) 医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

小児に固有の特徴は、成長・発達していくことである。正常な成長・発達過程と、その妨げとなる様々な先天異常について講義する。生まれてきた子どもたちを守る取り組みとして、新生児マス・スクリーニングも採り上げる。臨床医学総論（外傷、先天異常）先天奇形、および染色体異常、損傷、中毒その他外因の影響について学ぶ。

《テキスト》

「診療情報管理 I（基礎・医学編）」日本病院会
講義スライドをプリント配布

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①健康な小児の成長・発達過程を理解している。
- ②染色体異常、単一遺伝子疾患が生じる仕組みを理解する。
- ③代表的な先天異常の概要が説明できる。
- ④新生児マス・スクリーニングによる障害予防の重要性を理解している。
- ⑤主な疾病の原因を理解できる。
- ⑥主な検査についてその目的と評価ができる。
- ⑦代表的な先天異常、遺伝子異常の概要が理解できる。
- ⑧外傷、中毒について理解できる。

《授業時間外学修》

試験前学習の補助として、講義内容に即した練習問題を提供する。（30分程度）

《成績評価の方法》

期末テスト(80%)、受講態度(10%)、小テスト(10%)

《備考》

実務家教員による授業

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説書を配付する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	遺伝学の基礎 常染色体異常	染色体・DNA・遺伝子などに関する理解の上で、ダウン症候群をはじめとする常染色体異常について、高齢妊娠の出生前スクリーニング検査の問題などと合わせて学習する。
2	性染色体異常 性分化疾患	X染色体とY染色体の特徴、男女の分化の仕組みなどについて理解し、ターナー症候群ほか各種の性染色体異常・性分化疾患について、心理社会的問題とともに学習する。
3	単一遺伝子疾患	単一遺伝子の異常による疾患の遺伝形式を理解する。具体例として先天代謝異常症を採り上げ、新生児マス・スクリーニングによる発症予防の取り組みについて学習する。
4	赤ちゃんの誕生 胎芽病	受精から分娩に至る発生過程、新生児～乳児期の正常な成長発達過程と、発生初期の外的要因による先天異常の発生について学習する。原発事故の影響についても考察する。
5	筋・骨格系の先天異常	筋肉・骨格の構成と小児期の身体発育について理解し、代表的な発生異常について学習する。腹壁と横隔膜の異常による消化管の脱出（ヘルニア）についても学ぶ。
6	腎尿路系の先天奇形	代表的な腎尿路系の先天奇形について学ぶ。特に尿道下裂、停留精巣、水腎症。
7	軟部組織外傷、頭部外傷 について学ぶ	軟部組織外傷、頭部外傷について学ぶ。皮膚の損傷、筋、腱、靭帯の損傷など。頭蓋骨骨折についても学ぶ。
8	胸腹部外傷	胸腹部外傷について学ぶ。気胸、心臓外傷など
9	尿路生殖器の外傷	腎外傷、膀胱外傷、尿道外傷について学ぶ
10	中毒	薬物中毒、食中毒について具体的に学ぶ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅱ				
担当者氏名	小山 幹夫				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21 (技能) 医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-22 (技能) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-30 (態度と志向性) 学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。				

《授業の概要》

新生物（腫瘍）は身体のすべての臓器・組織に発生する疾患であるので、新生物の分類、診断法、治療法は、その性質、発生部位等から多岐にわたる。

ここでは、新生物の発生組織部位・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、移転性等新生物の概要を理解するとともに、主要な新生物を中心に、新生物の多彩な診断法、治療法を学び、適切なICD分類に結びつく基本的知識を修得する。

《授業の到達目標》

新生物に関する疾病について

- ①「特徴」「分類・症状」「検査・診断法」「治療法」などの概要を理解している。
- ②ICD-10に基づく分類の基礎を理解している。
- ③診療録に使用する外国語のうち、特によく使う単語について理解している。

《成績評価の方法》

期末テスト 90%
 小テスト 5%
 受講態度 5%

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」
 日本病院会
 プリント配付

《参考図書》

特になし

《授業時間外学修》

事前学修
 医療知識に関心を高めるため、日頃からメディアを通し情報収集を勧める。(20分程度)
 事後学修
 授業内容の復習をまとめを使用し行うことを奨励する。(20分程度)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	新生物総論	悪性と良性の区別の確認 等
2	新生物各論①	消化器系の悪性新生物①
3	新生物各論②	消化器系の悪性新生物②
4	新生物各論③	呼吸器系の悪性新生物①
5	新生物各論④	呼吸器系の悪性新生物②
6	新生物各論⑤	内臓系の悪性新生物
7	新生物各論⑥	性腺系の悪性新生物
8	新生物各論⑦	造血器系の悪性新生物①
9	新生物各論⑧	造血器系の悪性新生物②
10	新生物各論⑨	まとめ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅲ				
担当者氏名	山崎 尚也				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。				

《授業の概要》

血液疾患、内分泌異常、代謝異常について、病気の原因となる細胞やホルモンなどの名称と機能を学んでいきます。正常な状態を基礎知識として持った上で病気の原因とメカニズム、それぞれの病気に対してどのような検査方法や治療法があるのかを学んでいきます。

《授業の到達目標》

- ①血液・免疫疾患が何が原因で起こるのか、血液の細胞名と機能をあげることができる。
- ②内分泌疾患にはどのようなホルモン分泌異常があるのか、ホルモン名と機能をあげることができる。
- ③代謝障害による疾患が、何の異常であるか物質名をあげることができる。

《成績評価の方法》

成績評価は100点満点とする。その内訳を下記に記す。

- ①平常点30点 (小テスト3回実施予定・1回10点)
 - ②期末試験70点
- 《試験のフィードバックの方法》
 期末試験終了後に解説をする。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編」日本病院会

《参考図書》

- 「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」
 - 「病気がみえる vol.5 血液」
 - 「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」
- 出版社：メディックメディア

《授業時間外学修》

- 事前学修：テキストを読み、わからないことがあれば調べておくこと。(15分)
- 事後学修：講義内容や小テストの復習をすること。(60分)

《備考》

本講義における必要な基礎知識を習得し、総合的に理解していること。その判断は成績評価にて60点以上の者とする。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	血液成分の基礎	血液成分についての基礎知識
2	免疫機能の基礎	免疫についての基礎知識
3	白血球の病気	白血球異常症 (造血器悪性腫瘍)
4	赤血球と血小板の病気	赤血球異常症 (栄養性貧血、溶血性貧血、その他の貧血) 血小板異常症
5	血液凝固の病気	凝固・線溶に関する基礎知識 凝固障害、その他の出血性病態
6	免疫の病気	免疫異常により起こる疾患 (自己免疫疾患、アレルギー、HIV感染症)
7	内分泌の基礎	内分泌についての基礎知識
8	内分泌の病気 1	甲状腺障害 糖尿病
9	内分泌の病気 2	下垂体、副甲状腺、副腎障害
10	栄養と代謝の病気	栄養失調症、ビタミン欠乏症、代謝障害
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	解剖生理学				
担当者氏名	吉田 信隆、鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 2-21 (技能) 医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 				

《授業の概要》

本講では、人体を構成する各器官の細胞・組織構築について理解することと、人体を維持・調節する解剖および生理的な機能について理解することを目標とする。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I (基礎・医学編)

《参考図書》

プロが教える人体の全てわかる本：2019.3第8版。田村正隆、ナツメ社

《授業の到達目標》

- ①ヒトの体の概観を、基本的な医学用語で説明できる。
- ②各臓器の名称・位置・機能を説明できる。
- ③各組織や臓器を構成する細胞の特徴を理解する。
- ④卵子・精子・受精卵と体細胞の関係を理解する。

《授業時間外学修》

事後学修 その日に学んだ内容はその日のうちに復習する：20分程度。

《成績評価の方法》

期末試験の評価：70%
毎授業の出席の評価：30%

《フィードバックの方法》

期末試験後に解説の配布

《備考》

人体の構造の基本を学ぶ講義である。今後の講義の基礎と奈留ので、十分な理解が必要である。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	イントロダクション	人体の概要、基本的な部位の名称など
2	細胞と組織：1	細胞の構造と機能
3	細胞と組織：2	細胞の種類とその役割
4	脳、顔、咀嚼-1	神経系、感覚器官の構造値その役割について
5	脳、顔、咀嚼-2	感覚器官の役割と食物の咀嚼機能
6	呼吸器、循環器-1	呼吸器の構造と役割
7	呼吸器、循環器-2	循環器の構造と役割
8	消化器-1	消化器の構造と役割-1
9	消化器-2	消化器の構造と役割-2
10	泌尿生殖器、上下肢-1	泌尿器の構造と役割
11	泌尿生殖器、上下肢-2	生殖器の構造と役割、上下肢の構造と役割
12	骨格系	骨格の構造と機能
13	筋肉系	筋線維の種類や特性、筋収縮のしくみなど
14	内分泌系	内分泌器官、各種ホルモンの役割など
15	復習とまとめ	復習とまとめ

《専門教育科目》

科目名	臨床検査一般				
担当者氏名	小野寺 利恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

現在臨床検査は、病名を決定するだけでなく治療方針の決定、予後、治療の判定、人間ドックやスクリーニングの検査など医療における役割は大きく、かつ広範囲に及んでいる。これら臨床検査の目的を理解し、医療従事者として必要な医学知識を習得する。

《テキスト》

前川芳明「ナースのためのよくわかる臨床検査」メディカ出版

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

- ①臨床検査の役割を理解している。
- ②各種検査項目の目的を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：次の講義内容のテキストを読む (30分)
事後学修：小テストの見直し、課題プリントをする。(30分)

《成績評価の方法》

- ①平常点 (授業態度、課題、発表) (30%)
- ②試験 (70%) 《試験のフィードバック》 試験 (60分) 後に解説 (30分) を行う。

《備考》

講義に集中すれば、小テストも課題も短時間で効率よくできるようになります。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨床検査とは	臨床検査の目的や必要性について
2	血液データの読み方	データを読むための基本を学ぶ
3	血液サンプリング時の留意点	データに影響する要因
4	感染症と血液検査 (1)	炎症と免疫反応について
5	感染症と血液検査 (2)	炎症マーカーについて
6	出血傾向と血栓 (1)	出血傾向と血栓をみるための血液検査
7	出血傾向と血栓 (2)	DICについて
8	輸血と副作用 (1)	血液製剤の紹介
9	輸血と副作用 (2)	輸血前検査と副作用
10	腎機能検査と尿検査 (1)	腎臓の機能とその検査
11	腎機能検査と尿検査 (2)	尿一般検査
12	肝機能検査	肝疾患と検査
13	内分泌の検査	各種内分泌ホルモンについて 分泌臓器別の疾患と検査について
14	感染症の検査	感染症に対する生体の反応と検査
15	まとめ	これまで学んだ臨床検査についてまとめて発表する アクティブラーニング (プレゼンテーション)

《専門教育科目》

科目名	臨床医学・医療用語				
担当者氏名	朝原 秀昭、水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

医療に関わる者として、診療録内容の読み取りや、医療従事者間の意思疎通に必要な専門用語を、解剖生理から診断、治療にいたるまで広範囲に亘って学修する。
英語で記載された診療録を把握できるようにするための医学英語を学修する。
各臨床分野の内容と結びつけながら理解を深める。

《テキスト》

・「診療情報管理士テキスト 診療情報管理 II (基礎・医学・医療用語編)」(日本病院会)
・プリントを配付する。

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

- ① 医学の各領域で使われる医学用語を理解している。
- ② 医療関連で使用される用語を理解している。
- ③ 医療事務の現場で外国人患者に英語で対応できる。

《授業時間外学修》

事前学修 (60分) : テキストに記載されている医学用語について、内容を調べ、理解する。
事後学修 (60分) : テキストに記載されている医学用語について、内容を調べ、理解する。

《成績評価の方法》

試験…80%、平常点 (受講態度) …20%
再試験は行いません。
《フィードバックの方法》
期末試験終了後に講評する。
試験60分・講評30分

《備考》

初めて聞く話を理解する事は非常に難しい事です。教えてくれるのを待っていても得られるものは少ないでしょう。
1~10回朝原、11回~15回水野が担当 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	循環器	循環器領域で使用される用語
2	呼吸器	呼吸器領域で使用される用語
3	消化器	消化器領域で使用される用語
4	内分泌・代謝	内分泌・代謝領域で使用される用語
5	神経	神経領域で使用される用語
6	感覚器	感覚器領域で使用される用語
7	骨格系	骨格系領域で使用される用語
8	皮膚・感染・寄生虫	皮膚・感染・寄生虫領域で使用される用語
9	医療用語 1	医療領域で使用される用語
10	医療用語 2	医療領域で使用される用語
11	医療英単語 1、医療事務現場の英会話 1	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。受付対応 (初診) の英語
12	医療英単語 2、医療事務現場の英会話 2	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。受付対応 (再診) の英語
13	医療英単語 3、医療事務現場の英会話 3	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。病院案内の英語
14	医療英単語 4、医療事務現場の英会話 4	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。会計での英語
15	医療英単語 5、医療事務現場の英会話 5	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。受付から会計までの英語

《専門教育科目》

科目名	生活介護論				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 				

《授業の概要》

現代社会は少子高齢化が進み65歳以上の割合は1/4を超え、多数の問題を抱えています。その中でも医療・介護サービスを必要とする高齢者の増加や、入院期間の短縮に伴う在宅介護の必要性、介護する家族の負担がクローズアップされています。小児から高齢者まで各年代別の健康問題・生活課題と疾患や機能障害について理解し、家庭での介護に適応できるよう学びます。

《授業の到達目標》

- ①少子高齢化社会の現状と課題について知り、理解している。
- ②人間の体の構造と年代別・臓器別の病気の種類と健康管理、介護・日常生活援助に必要な知識を知り理解している。
- ③健康障害のある人との接し方やコミュニケーションの取り方を知り理解している。

《成績評価の方法》

- ①平常点30 (授業態度10%、レポート20%)
 - ②期末試験 (70%)
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分

《テキスト》

直井 道子ほか著「生活と福祉」実教出版
 映像資料・プリントなどを使用する。

《参考図書》

堺 章著「目で見える体のメカニズム」医学書院
 田中 元著「イラストでわかるやさしい介護のしかた」高橋書店
 大久保 昭行監修「健康の地図帳」
 山口 和克監修「病気の地図帳」
 佐藤 達夫監修「体の地図帳」講談社

《授業時間外学修》

- ・事前学修 (30分程度) : テキストに目を通して、わからない言葉があれば調べておく。
- ・事後学修 (15分程度) : 街中での子供達や、障害者・高齢者の様子や行動、社会での出来事に関心を持ち、自分の考えを整理しておく。

《備考》

授業の具体的な内容・進度は授業計画に沿いながら適宜調整していく。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・健康と病気	講義の進め方の説明・健康とは？高齢化社会とQOL
2	ライフステージと健康管理①	高齢化社会とQOL・ICF 3つの要因
3	ライフステージと健康管理②	予防医学／幼年期～青年期の健康管理
4	ライフステージと健康管理③	青年期～壮年期の健康管理
5	ライフステージと健康管理④	中年期～高齢者の健康管理／生活習慣と健康、生活習慣病①
6	ライフステージと健康管理⑤	中年期～高齢者の健康管理／生活習慣と健康、生活習慣病②
7	高齢化の現状と特徴①	高齢者の生活習慣と健康
8	高齢化の現状と特徴②	高齢者の心身の特徴／高齢化の現状
9	高齢者の生活課題①	臓器別の病気の種類と特徴①
10	高齢者の生活課題②	臓器別の病気の種類と特徴②麻痺・視覚障害・聴覚障害のある人の介護
11	高齢者の生活課題③	臓器別の病気の種類と特徴③認知症
12	高齢者の介護①	高齢者の生活課題
13	高齢者の介護②	介護の基本①体位変換と移動／食事生活動作／ベッドメイキングに必要な体のしくみ
14	高齢者の介護③	介護の基本②清潔・排泄・家庭介護 (バイタルサイン)
15	高齢者の生活支援と福祉	DVD (介護) ・介護の基本③家庭介護 (誤嚥・窒息・火傷・熱中症と脱水)

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務総論				
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-10 (知識と理解)生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 3-30 (態度と志向性)学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。				

《授業の概要》

ビジネス現場で職業人として業務を遂行する上で理解して活用するには何が求められるのか、ビジネス実務の意義や内容など現場の基礎知識について学びます。具体的には、私たちを取り巻く社会環境を知り、そこで必要な業務マネジメント、個人業務および協働業務を実践するために求められる資質やスキルの基本知識を学び、自分のキャリアに繋がります。

《授業の到達目標》

- ①昨今のビジネス環境を理解し現場の概観を理解できている。
- ②ビジネス実務の基本、仕事の進め方、ビジネスとサービス活動、ビジネスと表現活動、ビジネスと情報活動、ビジネスと組織活動のからみなどの基本知識を理解している。
- ③ビジネス実務の活動、オペレーション活動、マーケティング活動を理解している。
- ④これからのビジネス実務の方向性を理解している。

《成績評価の方法》

1. 平常点 (受講態度・発表) 40%
2. 課題・小テスト 30%
3. 学期末テスト 30%

《フィードバック方法》

課題・小テストについての講評の時間を設けます。

《テキスト》

公益財団法人 実務技能検定協会編「新秘書特講 -秘書検定で学ぶオフィスの常識と心構え-」早稲田教育出版

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド」3級・2級 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「秘書検定パーフェクトマスター」3級・2級 早稲田教育出版

《授業時間外学修》

「ビジネス実務マナー検定」「秘書検定」にもチャレンジする姿勢を持って、総合力を養うため、毎週の課題があります。

【事前学修】課題を自宅学習する (60分)

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する (30分)

《備考》

日々変化している社会の出来事に関心を持つこと。そのためには、新聞やTV、ネットなどでトレンドな時事ニュースに毎日接することが大切です。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション ビジネスの定義	ビジネスとは何か、ビジネスの定義について理解する
2	ビジネス実務学習の意義	ビジネスの現場での事例を基に、ビジネス実務についての理解を深める グループ別に課題についてディスカッションしてまとめ、発表
3	キャリア形成の方向性を考える	キャリアプランシートで自己分析 (関心ごとや好きなこと、どのような生き方、働き方がしたいのかなど)
4	働き方の基本 1	個人業務を管理 (マネジメント) する
5	働き方の基本 2	職場の人間関係とコミュニケーション
6	働き方の基本 3	ビジネス現場の環境変化 (オフィスの環境の移り変わりに伴う働き方の変化)
7	ビジネス実務の基礎知識 1	ビジネス現場で求められる仕事の進め方と基本的な心構え
8	ビジネス実務の基礎知識 2	ビジネスを支える表現活動の実際 敬語表現 電話応対 ビジネス文書
9	ビジネス実務の基礎知識 3	ビジネス文書の取り扱い
10	ビジネス実務の基礎知識 4	ビジネス実務を支える業務の基本 (ファイリング、PC活用、経理の基本)
11	ビジネス実務の基礎知識 5	組織の仕組みと活動の基本業務、会議実務
12	ビジネス実務の基礎知識 6	実務に必要な情報収集と情報の共有、伝達
13	働き方の基礎知識 1	これからのキャリア形成 (働き方の多様化、キャリアデザイン) グループ別に課題についてディスカッションしてまとめ、発表
14	働き方の基礎知識 1	変化するビジネス社会と人材育成の基本的考え方
15	まとめ・総括	ビジネス環境を熟知し、そこに身をおくワーカーとしての知識や自覚を心得て行動できる人材とは

《専門教育科目》

科目名	マナーと身だしなみ演習 I				
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 3-30 (態度と志向性) 学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。				

《授業の概要》

この授業は、さまざまな状況の下で必要となるマナーと身だしなみについて、一から実践しながら学びます。実践演習をすることで、基本的な言葉遣いや立居振る舞いのマナーから表現の仕方を学び、状況に合わせた身だしなみを身に付けることが目的です。社会に出て必要なマナーを知らないで恥をかかないように、そして職場では女性として輝いて働いていくために必要な動作を毎回実践していきます。

《授業の到達目標》

- ① 社会人として必要なマナーと職場常識の基本的知識を身に付ける。
- ② 社会人としての身だしなみの基本を理解し、実践できる。
- ③ 言葉づかい、挨拶、お辞儀の基本を理解し、行動できる。
- ④ 社会人としてのルールとマナーを心得て、行動ができる。

《成績評価の方法》

1. 平常点 (授業態度・確認テスト・提出物) 40%
2. 実践演習・課題・小テスト 30%
3. 学期末テスト 30%

〈フィードバックの方法〉

課題や小テストについては解説の時間を設ける。

《テキスト》

医療秘書教育全国協議会編 近喰晴子他著「新生活教養 一社会人としての基本マナー」 健帛社

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「サービス接客検定 3級/2級公式テキスト」 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「秘書検定受験ガイド3級」 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級」 早稲田教育出版

《授業時間外学修》

ビジネス系検定試験問題にチャレンジすることで、知識と実力が身につきます。

【事前学修】 配布課題を自宅学習する (60分)

【事後学修】 配布した問題を解きながら復習をする (30分)

《備考》

職場では協調性と共に好感度も重要視され、周囲の人々から清潔感のある基本的なマナーと身だしなみを身に付けた人材が求められます。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネスマナーの意味と役割 1	①一般的なマナーの意味とビジネスマナーの理解 ②グループワーク 1 (グループ別にディスカッションをまとめて)
2	ビジネスマナーの意味と役割 2	①ビジネスマナーの果たす役割 ②グループワーク 2 (グループ別にディスカッションをまとめて)
3	立ち居振る舞いの基本 1	①お辞儀の基本理解 (動作練習) ②応対の基本姿勢 (場面別に使い分ける挨拶の仕方実践)
4	立ち居振る舞いの基本 2	①お辞儀の実践演習と座り方、立ち方、歩き方 (応用練習) ②持ち物の持ち方、渡し方の実践演習
5	職場のルールとマナー 1	①基本的ルールとマナーについて ②グループワーク 3 (「身だしなみ」ってなに?についてディスカッションをする)
6	職場のルールとマナー 2	①身だしなみのマナーについて (好感を持たれる態度と着こなし、メイク術) ②グループワーク 4 (おしゃれと身だしなみの違いについてディスカッションをする)
7	職場のルールとマナー 3	①身だしなみチェックと実践演習 ②グループワーク 5 (グループ別にディスカッションをまとめて)
8	言葉遣いのマナー 1	①社会生活の基本、挨拶と状況に合わせた言葉遣い ②言葉遣いの実践演習
9	言葉遣いのマナー 2	①敬語の意味と目的 ②尊敬語・謙譲語の使い方実践
10	言葉遣いのマナー 3	①間違いやすい言葉遣いと正しい敬語表現 ②言葉遣いのロールプレイング
11	来客応対マナー 1	①職場での基本ルール ②来客の迎え方実践演習
12	来客応対マナー 2	①職場での接遇用語 ②お茶の出し方、言葉遣いの実践演習
13	訪問のマナー	①訪問の身だしなみと言葉遣い ②実践演習
14	総合演習 1	①社会で必要とされるマナーと身だしなみとは ②グループワークによるディスカッションとロールプレイングの実践演習
15	総合演習 2 まとめ	まとめによる各自パワーポイントを用いたプレゼンテーション発表と小テスト

《専門教育科目》

科目名	情報科学				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-10 (知識と理解)生活する上で必要な社会常識を理解している。				

《授業の概要》

高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。

《テキスト》

「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成30-31年度版」富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)

《参考図書》

滝口直樹 著 「ゼロからはじめる ITパスポートの教科書」とりい書房

《授業の到達目標》

1. 情報機器とシステム、ネットワークの活用ができる。
2. システム的な考え方や論理的な思考力、問題解決手法に関する知識を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：各章の内容を事前に予習する。(10分程度)
事後学修：各章の章末問題を解く。(20分程度)

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%
 2. 課題提出 20%
 3. 期末試験 60%
- 《学生へのフィードバック方法》期末テスト後に解説を行う。

《備考》

本講義は1年後期科目「情報管理論」とセットにして履修することが望ましい。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コンピュータシステム(1)	コンピュータの構成要素(1)：五大装置
2	コンピュータシステム(2)	コンピュータの構成要素(2)：記憶メディア
3	コンピュータシステム(3)	システム構成要素
4	コンピュータシステム(4)	ソフトウェア(1)：基本ソフトとファイル管理
5	コンピュータシステム(5)	ソフトウェア(2)：応用ソフトについて
6	コンピュータシステム(6)	ハードウェアについて
7	理解度確認	コンピュータシステムに関する理解度チェック
8	技術要素(1)	ヒューマンインタフェース、マルチメディア
9	技術要素(2)	データベースについて
10	技術要素(3)	ネットワークについて
11	技術要素(4)	セキュリティ(1)：情報資産と情報セキュリティ
12	技術要素(5)	セキュリティ(2)：ネットワーク情報セキュリティ
13	基礎理論(1)	離散数学、応用数学と情報理論
14	基礎理論(2)	アルゴリズムとプログラミング
15	まとめ	章末問題、期末試験について

《専門教育科目》

科目名	日本の生活文化				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。				

《授業の概要》

日本人の生活スタイルは、戦後70年以上を経過し、大きく変化した。生活スタイルの変化とは、新たなモノを取り入れると同時に、不要となった古いモノを捨て去るということでもあった。この授業では、「モノ」の変遷を通して、日本人の生活スタイルの変化とその意味について考える。資料として、学生諸君が余り観ることがない(と思われる)、古い日本映画などの映像資料その他を使用する。

《授業の到達目標》

- ①モノの変遷をとおして、戦後日本の生活文化の歴史を理解している。
- ②生活スタイルの変化と現在の私たちの生活スタイルとの関わりを理解している。

《成績評価の方法》

- 1. 期末試験 (70%)
 - 2. 平常点 (30% 授業態度 提出物)
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

映像資料・プリントなどを使用する。

《参考図書》

水牛クラブ編集「モノの誕生「いまの生活」1960-1990」(晶文社)など
 その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：与えられたテーマに関して、インターネット等で調査する。(20分程度)
 事後学修：授業中に出した問題(クイズ形式)の解答を、文献、インターネットなどによって調べる。(20分程度)

《備考》

毎授業、必ずノートを取る。ノートは、試験で必要となる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	モノと人間の関わり 身の回りのモノ認識 1950年代における日米の生活レベルの違い
2	焼跡と配給所	戦後史① 配給制度 買い出し
3	家庭電化と家事労働	家庭電化の時代 三種の神器 戦後における「家事」の質的变化
4	チャブ台の消失	箱膳→チャブ台→ダイニング・テーブル
5	戦後住宅事情と2DK	日本の住宅事情 食寝分離と就寝分離 2DK住宅の登場
6	買い物かごと商店街	商店街→スーパーマーケット→コンビニエンスストア
7	犯罪とモノ	犯罪捜査とモノ 犯行動機の変容
8	タイプライターと職業婦人	タイプライターと女性タイピスト 日本の女性労働者の歴史
9	自転車とスクーター	自転車と職業 スクーターの盛衰史
10	高度成長前の暮らし	昭和30年代を考える
11	高度成長の明と暗	戦後史② 高度成長時代とは何だったのか
12	ミニスカートとジーンズ	若者文化の変遷
13	インスタント食品	食生活を変えたモノ
14	電話機の変遷	壁掛け式電話～ケータイ・スマホ
15	まとめ	今の生活/昔の生活 消えたモノ/残ったモノ/復活したモノ

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシー I				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

PCを利用して、情報の収集・整理・分析・活用をするための技能の習得を目的とする。ワード・エクセルの基本操作を学習した上で、それらを利用して情報を活用するためのプロセスを学ぶ。前期は、インターネットによる統計情報の検索と検索結果の考察、目的にあったレポートの書き方など、情報の表現を中心に学習する。あわせて、スキルの向上のために資格試験についても解説を実施する。

《授業の到達目標》

1. ワードの基本操作を習得している。
2. エクセルの基本操作を習得している。
3. 必要な情報が検索でき、結果の考察ができる。
4. 目的にあったレポートが作成できる。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、課題状況）60%、実技試験40%で評価する。いずれかの項目が基準に満たない場合、単位は認定されない。
 ≪フィードバックの方法≫課題ごとに採点しコメントを返却する。期末試験後に解説を行う（試験60分・解説30分）。

《テキスト》

オリジナルテキスト（実費）

《参考図書》

「[改訂第3版 ver.2] 基礎からわかる情報リテラシー」奥村晴彦（著）、森本尚之（著） 技術評論社

「日本語ワープロ検定試験模擬問題集」日本情報処理検定協会 ※級ごとに発行されています。

《授業時間外学修》

事前学修：タイピングを毎日練習する（30分）
 事後学修：復習課題に取り組む（40分）
 検定練習：検定試験のための練習をする（60分）
 タイピングを毎日練習する（20分）

《備考》

検定を申し込んで、具体的な目標を設定して、練習に取り組みましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス ワード基礎 1	授業の進め方、タイピング練習、ウィンドウズの基本操作 日本語入力練習
2	ワード基礎 2	フォント、段落書式（文字サイズ等の変更、インデント・箇条書き等）
3	ワード基礎 3	表作成 1（表の挿入、レイアウト・デザインの変更）
4	ワード基礎 4	表作成 2（表作成課題演習）
5	ワード基礎 5	ビジネス文書作成（日本語ワープロ 3 級解説）
6	ワード基礎 5	日本語ワープロ検定試験紹介
7	エクセル基礎 1	基本操作 計算式の入力、書式の設定
8	エクセル基礎 2	基本関数とセルの絶対参照
9	エクセル基礎 3	グラフ作成
10	エクセル基礎 4	並べ替え・総合問題
11	レポート作成 1	レポート作成に必要な機能（ページ設定、ページ番号、図表番号、脚注等）
12	レポート作成 2	レポート作成に必要な機能（ヘッダーとフッター、検索・置換等）
13	情報検索	インターネットによる基本統計情報の検索
14	課題演習 1	テーマに沿った情報を収集し、整理する
15	課題演習 2	レポートの作成

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	理数基礎A				
担当者氏名	鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-20 (技能) プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

本科目は、理科や数学といった科目を苦手としてきた学生を対象として、いわばこれまでの復習を行い、知識の掘り起しをねらうものである。前半は算数・数学に関わる懐かしい話題を、後半は理科分野の中から主に化学、生物に関する話題をはじめ、データを読み取る力 (Data-Based Thinking) の問題にも触れる予定。本科目を受講することで、今後の専門教育への導入がスムーズになれば幸いである。

《授業の到達目標》

1. 日常生活上、必要とされる数学の基本的な計算、数式を理解している。2. 化学、生物分野を中心とした生活上の理科の基本を理解している。3. 各種データに見られる数字情報を誤解なく、ロジカルに認識できる。

《成績評価の方法》

テストの結果を重視 (中間試験40%、期末試験40%) するが、平常点 (受講態度・提出物・小テストなど、20%) も加味し、総合的に評価する。

《フィードバックの方法》

テスト実施後もしくは翌週に解説 (30分程度) を行う。

《テキスト》

特になし。
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

1. 小宮山博仁 著「大人に役立つ算数」 (文芸春秋)
2. 西口正 著「大人のお勉強 算数編」 (PHP研究所)
3. 仲田紀夫 著「おもしろ数学」 (三笠書房)

《授業時間外学修》

1. 配布された資料をもとにした復習 (15分程度)
2. その他適宜授業中に提示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 算数・数学①	授業のすすめ方 算数キホンのキ～計算が速くてうまくなる
2	算数・数学②	割合、比率、分数など ～賢いショッピングのために…
3	算数・数学③	平均算、和差算 ～テストの点数はいくつになるか？
4	算数・数学④	鶴亀算 ～懐かしい「連立方程式」の登場です
5	算数・数学⑤	数や単位というもの① ～数字の世界って、意外とあいまい
6	算数・数学⑥	数や単位というもの② ～数字の世界って、意外とあいまい
7	算数・数学⑦	前半まとめ
8	理科①	水溶液の作り方 ～調理人には切っても切れない科学です
9	理科②	エネルギーと代謝 ～我々は何からエネルギーをとり入れ、どのように消費するのか？
10	理科③	力学 力はどの方向に向くのか
11	Data-Based Thinking①	数字を扱う各種データの見方
12	Data-Based Thinking②	統計情報のウソホント ～ロジカルに考えよう①
13	Data-Based Thinking③	統計情報のウソホント ～ロジカルに考えよう②
14	客観的情報伝達	グループワーク (情報をかたちに)
15	客観的情報伝達 まとめ	グループワーク (情報をかたちに)、まとめ

科目名	統計学				
担当者氏名	教員				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。 				

《授業の概要》

統計学的推論、検定の計算処理は、コンピュータを用いて多く行われている。しかし、どの方法を用いるのか、得られた結果をどのように解釈するのかという判断は、自分自身で行う必要がある。本講義では、具体的な例を通して、統計学の基礎を学ぶ。

《テキスト》

①統計学がわかる ハンバーガーショップ… ②統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 2冊とも 向後・富永著者 技術評論社③必要に応じて配布プリントがある。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①数値に対する処理方法ができる。
- ②統計解析の概念と処理方法を理解できる。
- ③関数電卓を用いて簡単な統計処理ができる。
- ④コンピュータ上で統計処理ができる。

《授業時間外学修》

- ①配布した統計の演習問題を解いておくこと。
 - ②関数電卓が扱えるようにしておくこと。
 - ③表計算ソフトウェア(Excelなど)が使えるようにしておくこと。
- 事前学修：プリントを読んでおくこと(20分程度)。
事後学修：プリントに講義で学んだことを追記して読み直す(20分程度)。

《成績評価の方法》

- ①期末時に実施するレポート課題(90%)
 - ②平常点(授業態度、10%)
- 《学生へのフィードバックの方法》
講義終了後にレポートの内容に対して説明をする。

《備考》

講義のほかに、PCを使った演習などがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	数値の扱い方	四捨五入と四捨六入、有効数字、小数点、まるめと総和・平均値
2	処理の流れ	平均値～偏差～偏差平方和～分散～標準偏差(偏差値)
3	基準値	正規分布(標準正規分布)
4	代表値	平均値・中央値・最頻値・パーセント・クォンタイル・歪・尖度・標準偏差)とデータ分類(尺度)
5	母集団と標本	大数の定理、中心極限の定理、サンプル、Z分布、t分布
6	推定	区間推定と点推定
7	検定①	カイ2乗検定 演習
8	検定②	t検定 演習
9	検定③	t検定、対応あり、対応なし 演習
10	検定④	適合度、独立性検定 演習
11	検定⑤	分散分析1要因
12	検定⑥	分散分析2要因
13	検定⑦	演習
14	度数分布	散布図、ヒストグラム・棒グラフ
15	相関	正負の相関、相関係数、無相関、回帰直線、因子分析

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	こころと行動				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

人間の行動の背景には様々なこころの動きがある。モノがあふれる現代、人々の関心は内面へと向い心理学に対する関心もますます高まっている。本講義では、日常的なトピックスからこころの深層の世界までさまざまな題材を取り上げながら、心理学についての理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①心理学の基礎的・一般的な知識を習得し、説明することができる。
- ②他者の言動や心理を理解するための視点を持つ。
- ③自分自身のこころの動きや行動、発達過程を内省する意識を持つ。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. 試験（70%）
 2. 講義中の提出物（30%）
- 《試験のフィードバックの方法》
期末試験後、解説を行う（試験60分、解説30分）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 心理学とは？	「心理学」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	感情・情動	感情や情動が生起するプロセスや機能等について学修する。
3	感覚・知覚	感覚・知覚の種類や過程等について学修する。
4	記憶の心理学	記憶の種類やプロセスについて学修する。
5	学習心理学	連合理論、条件づけ、認知理論、行動の学習や消去のプロセスについてなど概説する。
6	こころの発達（1）	乳児期～学童期の心身の発達について学修する。
7	こころの発達（2）	青年期～高齢期の心身の発達について学修する。
8	対人認知と印象形成	対人認知の過程や諸要因について学修する。
9	集団と組織の理解	集団や組織が個人の認知・行動に及ぼす影響等について学修する。
10	欲求・動機づけ	欲求や動機づけの種類や関連要因について学修する。
11	パーソナリティ・性格	パーソナリティに関する諸理論やパーソナリティ検査等について学修する。
12	知能と創造性	知能に関する理論や知能検査、創造性や創造的思考について学修する。
13	ストレスと適応	ストレスが心身に与える影響やストレスへの対処、個人の環境に対する適応に関する諸問題について学修する。
14	心理学的支援と心理臨床	今日の社会における心理学的支援の意義や関係する専門職、臨床心理行為の特色について学修する。
15	まとめ	「心理学」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生活と化学				
担当者氏名	矢野 卓雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。				

《授業の概要》

我々の周りには様々な物質が存在し、役立つ物もあれば危害を加える物もある。これらの複雑多岐にわたる物質も、基本となる数十種類の元素からなり、この組み合わせり方によりその物質の性質は決まってくる。この講義では、生涯役立つ化学の学識を習得するために、無機化学、有機化学、生物化学、栄養化学、食品化学などの分野の実生活に関連した事項を例に挙げながら説明する。

《授業の到達目標》

- ① 身の回りの化学物質の名称や起源、性質を説明できる。
- ② 有用物質の特性や利用方法を説明できる。
- ③ 有害物質の特性や対処方法を説明できる。

《成績評価の方法》

- ① 平常点 (受講態度、レポート、小テスト) 20%
- ② 期末試験 (80%) 記述式
《試験のフィードバック方法》小テストについては次回の講義にて、期末試験については期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一著
「食を中心とした化学」東京化学社

《参考図書》

指定しない

《授業時間外学修》

事前学修・テキストを読み、自力では理解できない部分を明確にしておくこと。(20分程度)
 事後学修・学習した内容をその日のうちに復習し、理解しておくこと。(45分程度)
 ・復習で理解できなかった内容は、次回の講義で質問し、理解するまで指導を受けること。

《備考》

授業中に重要な事項を示すので、重要事項は100%理解すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	身近な化学物質 1 有機化学物質	講義の概要、身近な化学物質、アルコール、メタンガス、プロパンガス、など
2	身近な化学物質 2 水	役割、水分子、極性、水素結合
3	物質の成り立ち	元素記号、原子の構造、電子配置
4	原子構造と特性	電子配置、原子の安定化、イオン
5	物質の構造	構造式、化学結合
6	物質の変化	反応、熱、栄養価、触媒、酵素
7	化学反応	反応速度、化学平衡
8	物質の状態	固体、液体、気体、気液平衡
9	濃度	溶解、濃度
10	溶液の性質	溶解度、浸透圧
11	光線	電磁波、紫外線、吸収剤、反射剤、環状炭化水素
12	電解質	酸、塩基
13	コロイド	タンパク質、脂質、糖質
14	官能基	アミン、アミド、異性
15	生物の中の化学物質	核酸、旨味物質、ビタミン、ミネラル まとめ

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナー I				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。				

《授業の概要》

この授業は、初年次教育として、学園の沿革、地域の学習、地域連携等、本学の学生として充実した学生生活を過ごすための学習面と生活面のガイダンスで構成されています。学生としての責任ある行動や心構えを学び、個々の目標に沿った学生生活を送る指針としていただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。(15分)
 事後学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。(1時間程度)

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%
 《課題へのフィードバックの方法》
 レポートはチューター、或いは、学科の授業担当者がチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講する。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー (学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使って説明する。ポータルサイトに今期の目標やキャリアチャートなどを入力する。
2	セミナーについて、レポートの書き方と読書の勧め	セミナーの受講について、セミナーレポートを書く上での要領を学ぶ。図書館の利用方法と読書の大切さについて
3	学園の沿革と建学の精神	学園の創立からの歴史を振り返り本学の建学の精神と教育目標について話す。実践目標愛優輝について事例を上げ、目標に近づけるよう学生生活を過ごすことを勧める。
4	大学生活の過ごし方	大学生が直面する悩みについて考える。また、カウンセリング・ルームの利用方法について学ぶ。
5	情報倫理 (個人情報と守秘義務)	職務上知った「秘密を守る」ことや、「個人情報を開示しない」といった、個人の権利や利益を守るための法律上の義務について、一緒に考える。
6	カルト問題について	カルト問題とその対策について基礎知識を学ぶ。人権侵害組織に巻き込まれない、マインド・コントロールを受けないために
7	社会貢献	世の中に必要とされている事柄、学生としてどのようなことに社会貢献していけるかについて考える
8	防災・自助と共助を学ぶ	個々の備えと助け合いが必要な防災についてや、具体的な佐方地区の防災体制について、地域の防災担当や自治会の方から学ぶ。
9	消費者教育	消費者被害者等の危機回避能力、生活設計能力、問題解決能力をはぐくむため、消費に関する基礎的・基本的な知識及び技能を学ぶ
10	薬物犯罪の被害者にならないために	薬物犯罪の現状を知り、被害者にならない為に日頃から意識することや、実践的な対処法を現場の警察の方から学ぶ。
11	地域理解 ①廿日市市 ②宮島学	廿日市市・宮島の歴史文化・風土などに触れ、地域の特性に詳しい行政担当者・観光協会担当者から具体的な情報を聞き、どう地域貢献に繋げるかを学ぶ。
12	命を考える	人として、今後母親としてそれぞれの視点から「命」や「命を授かる」といったことを日頃人の生死にかかわる仕事をされている助産師の方から体験談を通して考え学ぶ。
13	平和を考える	被爆体験者の方からの体験談を通して「平和について」学び、今後、自分がどのように平和と関わっていけるかについて考える。
14	進路について考える	本学の就職に関する現状の説明及び就職に向けて今後取り組むべきことを就職指導部担当より学ぶ。
15	コミュニケーションアワー (学科②)	期末試験対策と夏季休暇中の有意義な過ごし方について、ポータルサイト入力 (今期の反省、キャリアチャート)

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	母と子の健康				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 				

《授業の概要》

一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。

妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 女性の身体構造とその機能を理解している。
- ② 避妊・性感染症予防に必要な知識を説明できる。
- ③ 女性のライフステージと健康障害について理解できる。
- ④ 妊娠・出産・小児の健康課題を知り、理解できる。

《成績評価の方法》

① 平常点30% (授業態度10%・レポート20%)

② 期末試験 (70%)

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説する。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

谷田恭枝 著「新版 女性と生命」東海大学出版部
その他、プリント・映像資料

《参考図書》

ラーシュ ハンベルイェル著「誕生の神秘」小学館
木原 秀樹著「240動画でわかる赤ちゃんの発達地図」メディカ出版
「ウィメンズ・メディカ」小学館
深沢友紀著「産声のない天使たち」朝日新聞出版

《授業時間外学修》

- ・事前学修 (30分程度) : テキストに目を通して、わからない言葉があれば調べておく。
- ・事後学修 (15分程度) : 街中での妊婦や子供の様子や行動、母子関連のニュースに関心を持ち、自分の考えを整理しておく。

《備考》

授業の具体的な内容・進度は授業計画に沿いながら適宜調整していく。

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・母子保健	講義の進め方の説明・母子保健の意義と歴史、現状など
2	女性の生理的特徴①	女性の身体の構造
3	女性の生理的特徴②	女性の身体の働き
4	女性のライフステージと関連疾患①	女性のライフステージ：思春期～
5	女性のライフステージと関連疾患②	成熟期：避妊法と性感染症予防
6	女性のライフステージと関連疾患③	成熟期：月経のトラブルと炎症、不妊症と妊娠中絶
7	女性のライフステージと関連疾患④	更年期：がん・更年期、子宮の疾患など
8	女性の関連疾患⑤ 妊産婦の健康上の問題①	乳がん／妊娠の成立
9	妊産婦の健康上の問題②	胎児の発育
10	妊産婦の健康上の問題③	妊娠期の異常
11	妊産婦の健康上の問題④	分娩期各期・分娩の3要素
12	産褥期	産褥期の異常
13	小児の成長と発達	小児（新生児）の成長と発達、栄養（離乳食）
14	小児の疾患・事故	小児期の疾患・感染症とその予防、事故と虐待
15	妊産婦の健康上の問題⑤	DVD（生命誕生・出産）

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	体育				
担当者氏名	室田 杏奈				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。				

《授業の概要》

ジャズダンスをはじめ、様々なダンスの基礎的実技を主体とする。
 まず身体の柔軟性・体力を身に付け、自己表現及び芸術的感性を育む。また音楽とダンスによる効果としてストレス解消、心のみずみずしさやリフレッシュなど自己開発を促す。
 さらには最新版の人気アーティストの曲による振り付けも行い、このクラスの魅力としていく。

《授業の到達目標》

- ①リズム、ステップを理解している。
- ②短い振り付けを覚えることができる。

《成績評価の方法》

- ①授業態度 (80%)
 - ②体力テスト・ダンスの表現力 (20%)
- <課題へのフィードバック方法>
 実技後その内容について講評の時間を設ける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

なし

《授業時間外学修》

事前学修：授業で前回授業の振付を全員で踊ってもらうので、練習をしてくる。(10分～15分程度)
 事後学修：毎週振付が進むので当日進んだ部分を自宅で練習する (10分～15分程度)

《備考》

動きやすい服装、上履き専用のスニーカーを準備すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ストレッチ	ウォームアップから始める
2	ストレッチ	体の伸ばしている部分を理解、学ぶ
3	基本テクニック	体幹を鍛える
4	筋肉トレーニング	腹筋・背筋・側筋などを鍛える
5	アイソレーション	体を部分的に動かしていく
6	アイソレーション	応用した動きを覚える
7	リズムトレーニング	基本的な動き
8	リズムトレーニング	応用した動き
9	テクニック	ターン・ジャンプなどダンスに必要な技術を身につける
10	クロスフロー	ステップを踏む
11	コンビネーション	短い振り付けを覚えていく
12	コンビネーション	さらに振り付けを足していく
13	コンビネーション	構成を取り入れていく
14	コンビネーション	グループに分かれて練習する
15	前期のまとめ	前期に学んだことの確認

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	日本事情 I				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生のための授業である。本学における専門的な授業の理解や単位の取得を効果的に進めるためには、日本語をマスターするだけでなく、日本の生活環境・習慣の違いを理解することが重要である。この授業は伝統文化から現代社会び、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておき、関連した資料を読む。(30分)
事後学修：授業で配付されたものを復習する。(20分)

《成績評価の方法》

- 1. レポート(提出状況、内容) 70%
 - 2. 平常点(受講態度) 30%
- 《課題へのフィードバックの方法》
レポートは担当者がチェックして返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関わることについて説明する。
2	心構え	留学生としての心構えを説明する。
3	異文化間コミュニケーション①	「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて考える。
4	異文化間コミュニケーション②	「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて考える。
5	こころのケア①	留学生のこころのケアについて解説する。
6	こころのケア②	留学生のこころのケアについて解説する。
7	日本の医療事情	「病気になった時はどうすればいいか」ということから日本の医療事情を解説する。
8	日本の病院	日本の病院の制度などを解説する。
9	日本のIT事情	日本のIT化の現状を解説する。
10	日本の伝統工芸	日本の伝統工芸について解説する。
11	日本の伝統文化	能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説する。
12	日本の伝統食	日本古来からの伝統食を解説する。
13	日本人の食生活①	日本人の食生活を解説する。
14	日本人の食生活②	日本人の食生活を解説する。
15	まとめ	受講した感想、日本社会について話し合う。

科目名	英語 I				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-10 (知識と理解)生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。				

《授業の概要》

スポーツ用品メーカーを舞台にしたテキストを使い、基本的な文法事項を復習しながら、英語を聞き、読み、話し、書く活動を通して、簡単な日常英会話や自分自身のことを英語で表現できるようにする。平行して、NHKラジオの5分間番組「世界へ発信！ニュースで英語術」の時事ニュースを自宅学習用に使用し、授業で語彙やフレーズを確認する。

《テキスト》

Robert Hickling, Misato Usukara 「English First Basic」 (金星堂)

《参考図書》

井上謙一他「続 授業で使える英語の歌 20」 (開隆堂)
 その他の参考図書については適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①英語の文法を理解し、英語と日本語の違いが分かるようになる。
- ②簡単な日常英会話ができるようになる。
- ③英語で自分のことを言えるようになる。
- ④英語時事ニュースの内容がわかるようになる。

《授業時間外学修》

事前学修 (30分) : 教科書を読み、知らない単語の意味を調べる。NHKラジオ「世界へ発信！ニュースで英語術」を聞き、問題を解く。
 事後学修 (30分) : 課題をする。授業でやった部分を音読し、単語を覚える。

《成績評価の方法》

- 1. 期末試験 50%、2. 中間試験 30%、3. 課題 20%、
- 《試験のフィードバック方法》
- 期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《備考》

NHK「世界へ発信！ニュースで英語術」は月～金曜日であり、土・日は5日分が放送される。番組のウェブサイトもあり、パソコン、スマホ、タブレット端末でも勉強できる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス Pre-Unit、発音練習	授業の進め方、成績評価の方法、NHKラジオ講座の使用法、勉強の仕方を説明する。英語と日本語の語順の違い、発音の違いを学ぶ。
2	Unit 1 動詞の現在形①	be動詞と一般動詞の現在形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」①
3	Unit 1 動詞の現在形②	be動詞と一般動詞の現在形について、リーディングとライティングをしながら学び、英語の歌で動詞の現在形について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」②
4	Unit 2 代名詞①	代名詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」③
5	Unit 2 代名詞②	代名詞について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。英語の歌を聴いて代名詞について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」④
6	Unit 3 時を表す前置詞①	時を表す前置詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑤
7	Unit 3 時を表す前置詞②	時を表す前置詞について、リーディングとライティングを学び、英語の歌でも時を表す前置詞について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑥
8	中間試験 Unit 4 基本5文型①	中間試験を行う。英語の基本文型について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
9	Unit 4 基本5文型②	基本5文型について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。英語の歌を聴きながら基本5文型を確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑦
10	Unit 5 動詞の過去形①	過去形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑧
11	Unit 5 動詞の過去形②	過去形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。英語の歌を聴きながら過去形を確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑨
12	Unit 6 進行形①	進行形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑩
13	Unit 6 進行形②	進行形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。英語の歌を聴きながら進行形を確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑪
14	Unit 7 未来形①	willと be going toの細かいニュアンスの違いについて、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑫
15	Unit 7 未来形②	未来形をテキストのリーディングとライティングを通して学び、英語の歌でも未来形について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑬

科目名	中国語 I				
担当者氏名	劉 鳴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。				

《授業の概要》

中国語は日本語に似ているところが多いですが、外国語です。発音が一番難しいとされているので、初心者はず発音を習得しておきましょう。発音を練習すると同時に、中国語で簡単な挨拶表現を習得していきましょう。授業中はビデオなどで中国事情を紹介したりして、楽しい授業をしていきましょう。

《テキスト》

日中学塾編「わかりやすい入門中国語」(株)広瀬印刷

《参考図書》

授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①テキストの発音編における単語が正しい発音で読むことができる。
- ②簡体字の書き方を記憶している。
- ③物事を判断する表現ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業前に新しい授業内容を予習すること。(20分程度)
 事後学修：中国語の発音をよく練習し、新しい単語と言葉を暗記すること。(60分程度)

《成績評価の方法》

- ①平常点(小テスト、授業課題など)30%
- ②中間試験30%、期末試験40%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分

《備考》

中国語を覚えるため、日常会話の練習が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	中国語と簡体字	中国語の特色、簡体字の様態と書き方
2	声調	四つの声調の習得
3	基本母音	六つの基本母音の習得
4	子音	子音は21個ある
5	声調変化	話し言葉における声調変化
6	複合母音	日本語よりずいぶん多い
7	鼻音	nとngは発音が違う
8	中間まとめ	中国語発音のまとめ、中間試験(1~7)
9	語順と文法	基本的構造「我読書」(SVO)を習得
10	品詞の分類	文法を知る第一歩は品詞を知ること
11	判断を示す表現	「私は日本人です」
12	疑問を示す表現	「これは何ですか?」
13	よく使われる挨拶用語	「こんにちは」「どういたしまして」
14	名前の聞き方	「あなたの苗字は何ですか?」
15	期末まとめ	9~14回までの中国語文法と表現のまとめ

《専門教育科目》

科目名	豪州医療福祉研修				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-12 (知識と理解)医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 2-21 (技能)医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

日本医療福祉実務教育協会が主催するオーストラリア医療福祉研修に参加し、ホームステイしながら、同国の医療福祉事情や歴史文化についての見識を深める。オーストラリアではボランティアを活用した地域福祉制度を発展させているが、この研修では実際の現場でのボランティア活動を体験し、医療と福祉の原点に触れ、医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につける。

《授業の到達目標》

- ①オーストラリアの医療福祉事情についての見識を深める。
- ②オーストラリアの歴史・文化・生活を理解する。
- ③オーストラリアの人々とコミュニケーションをとれるようになる。

《成績評価の方法》

1. 研修に臨む態度 50%
2. レポート 50%

《課題へのフィードバック方法》

レポートについて講評の時間を設ける。

《テキスト》

「豪州医療福祉研修のしおり」(日本医療福祉実務教育協会)

《参考図書》

細井忠俊・パーウィック妙子「今日から使える!留学&ホームステイのための英会話」(アルク)

《授業時間外学修》

事前学修:「豪州医療福祉研修のしおり」にある日常会話集を声を出して練習する。(毎日30分)

・オーストラリアの歴史・文化・社会についての本を読む。(毎日30分)

事後学修:「豪州医療福祉研修のしおり」にある日常会話集を暗記するまで練習する。(毎日30分)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	(学内) 事前研修①	オーストラリア事情
2	(学内) 事前研修②	英会話
3	(学内) 事前研修③	英会話
4	(研修先) 英会話研修	日常生活、医療福祉分野など
5	(研修先) 英会話研修	日常生活、医療福祉分野など
6	(研修先) セミナー	オーストラリアの歴史・文化について学ぶ。
7	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
8	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
9	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
10	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
11	(研修先) 見学	各種医療機関、福祉施設
12	(研修先) 見学	各種医療機関、福祉施設
13	(研修先) 見学	博物館、市役所庁舎
14	(研修先) ボランティア	地域ボランティア体験
15	(学内) 研修のまとめ	研修の反省等

《専門教育科目》

科目名	アウトドア演習				
担当者氏名	鈴木 理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 3-29 (態度と志向性) 社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》

健康の維持・増進のためには、運動、栄養、休養をライフスタイルの中にバランスよく取り入れていくことが求められている。

そこで本科目では、学外の施設を利用し、健康管理の方策を主に運動・休養面から捉え、積極的な健康づくりのための実践例として体験・学習したい。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

1. 健康管理上の運動の必要性を修得する。
2. 健康管理上の積極的休養の必要性を修得する。
3. 健康管理上の運動と積極的休養の実践方法を修得する。

《授業時間外学修》

事前学修：運動と休養の意義、具体的方法に関わる自学自習(60分程度)。

事後学修：毎日10分(＋10)程度の運動実践。

《成績評価の方法》

受講状況(50%)とレポート課題(50%)による。

《フィードバックの方法》

レポート返却にともない、講評を行う。

《備考》

夏期宿泊研修型集中授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	ウェルネス 健康管理からみた運動と休養の必要性
2	演習Ⅰ	身体活動 ハイキング、森林浴、ストレッチングなど
3	演習Ⅱ	身体活動 ハイキング、森林浴、ストレッチングなど
4	演習Ⅲ	環境教育 自然観察、ネイチャーゲームなど
5	演習Ⅳ	環境教育 自然観察、ネイチャーゲームなど
6	演習Ⅴ	休養 温浴、リラクゼーションなど
7	演習Ⅵ	グループワーク 問題解決学習など
8	まとめ	まとめ・レポート
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)
 ボランティア活動時間 (70%)
 《成績のフィードバック方法》
 活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介
 「ボランティアのすすめ (基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)
 活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。
 事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

人間生活学科

医療事務情報Ⅰ

2年

-ス

《専門教育科目》

科目名	医療保険制度				
担当者氏名	浜咲 こそえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-22 (技能) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

医療機関は健康保険法に基づき保険診療を行っている。この保険診療の仕組みや法律（健康保険法、保険医療機関及び保険医療養担当規則）について理解する。また我が国の様々な医療保障制度（医療保険制度、高齢者医療制度、公費負担医療制度、介護保険制度、労災保険）について学習する。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト1…医療保険制度等基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ① 保険診療の仕組みと、医療保障制度の各制度がどのような制度であるかを理解している。
- ② 制度と年齢による一部負担金の違いを理解して窓口徴収が正確にできる。
- ③ 被保険者証からカルテの上書きへの転記が正確にできる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習内容について目を通しておくこと。
 事後学修：① 授業で行う確認テストの復習をする（10分程度）
 ② 授業範囲を繰り返し読み理解を深めること（20分程度）

《成績評価の方法》

- ① 期末試験 70%
 - ② 平常点（授業態度、確認テスト）30%
- 《試験のフィードバック方法》
 確認テスト：返却時に解説（10分程度）
 期末試験：試験後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療保険制度の基礎知識	医療保険とは何か
2	医療保険の歴史・保険者と被保険者	医療保険の歴史、国民皆保険制度について学習。 保険者と被保険者との関係 被（受ける）…被保険者、被保険者証
3	保険料と保険給付	社保と国保の保険料納入方法の違い 保険給付（現物給付 入院時食事療養費 療養費の支給 高額療養費）について
4	給付率と負担率 療養担当規則	医療に要した費用のうち患者が負担するのが負担率 療養担当規則は医療機関、医師が診療を行う上での規則
5	医療保険制度の種類	社会保険 国民健康保険 退職者医療制度 基礎問題集で復習
6	保険者番号の構成	法別番号 都道府県番号 保険者別番号 検証番号
7	後期高齢者医療制度	1) 保険給付…保険者 被保険者 適用開始日 保険料 被保険者証 一部負担金 2) 保健事業
8	公費負担医療制度	生活保護法について
9	介護保険制度	保険者と被保険者・保険料 給付の種類 サービス費 自己負担 利用手続き 基礎問題集で復習
10	被保険者証の見方	被保険者証の見本で比較 相違点と特徴を見る
11	カルテの上書き練習・点検	転記の注意事項を確認しながら上書き練習・点検をする
12	窓口徴収	実際に計算しながら徴収金額を理解する
13	保険外併用療養費 試験対策	評価療養と選定療養について 医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする
14	まとめ・試験対策	医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする
15	まとめ・試験対策	医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする

《専門教育科目》

科目名	医療コミュニケーション				
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-22 (技能) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。				

《授業の概要》

医療機関では総合的な患者サービスを重要視する方向に進んでいる。患者サービスによって病院全体の評価が大きく左右されることからメディカルスタッフにも、専門的な能力プラス患者接遇マナーが求められている。医療に携わる者として必要な窓口接遇マナーの基礎から、実践までを学習する。

《テキスト》

医療秘書教育全国協議会編 萩原久美子著「医療における接遇の基本」健帛社

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「サービス接遇検定 公式テキスト」3級・2級 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「サービス接遇検定 実問題集」3級・2級 早稲田教育出版

《授業の到達目標》

- ①敬語を正しく使い、挨拶とお辞儀がきちんとできる。
- ②電話での対応が適切にでき、受付窓口での患者さんの質問について、優しく丁寧に正しく受け答えができる。
- ③医療人として守るべきことを理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習の必要性、内容について目を通しておくこと。(10分程度)
 事後学修：毎回実施する患者接遇の実技問題を、添削箇所を確認し、復習する(15分程度)

《成績評価の方法》

1. 平常点 (授業態度・確認テスト・提出物) 40%
 2. 実践演習・課題・小テスト 30%
 3. 学期末テスト 30%
- 〈フィードバックの方法〉
 課題や小テストについては解説の時間を設ける。

《備考》

1. 教室に入室する際は、「挨拶」をして入室すること。
2. 積極的にロールプレイングに参加すること。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	患者接遇の基本マナー	医療人として守るべきこと (守秘義務、個人情報保護法) 医事業務における個人情報保護の適切な取り扱い
2	患者接遇の基本マナー	望まれる医事担当者のあり方について 対応の基本 (身だしなみ、姿勢、あいさつ、お辞儀、表情)
3	患者接遇の基本マナー	言葉遣いの基本 (尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語) 好感をもたれる態度
4	患者接遇の基本マナー	電話対応の基本…窓口対応と電話対応の違いを踏まえ、電話対応の練習をする 患者接遇の基本マナーの練習問題
5	患者受付の実際	窓口対応…診療受付から会計窓口、薬の受け取りまでの流れ
6	患者受付の実際	受付業務の事例研究 受付窓口 資格確認 予約 ご案内 順番 健康診断
7	患者受付の実際	受付の事例研究 ロールプレイング
8	患者受付の実際 コミュニケーション	クレーム対応 患者受付の実際の練習問題 人間関係と日常の健康管理 職場のコミュニケーションの練習問題
9	患者接遇の実技	電話対応・受付対応の実際 (検査予約の変更 診断書の作成依頼)
10	患者接遇の実技	患者の困りごとの対応の仕方 (診察券紛失 負担割合の疑問など)
11	患者接遇の実技	急病の子供が来院 (医師不在) 診療明細書の疑問
12	患者接遇の実技	トラブルに対する対応の仕方 (予約患者の待ち時間の不満など)
13	患者接遇の実技	電話での対応による対応の仕方 (電話による初診・再診料の受付など)
14	患者接遇の実技	電話対応の総復習 ロールプレイングによる実践練習
15	患者接遇の実技まとめ	受付窓口、会計窓口の応答範囲と独断で応答してはならない範囲 さまざまな場面での応答例を確認する

《専門教育科目》

科目名	医療事務管理特講				
担当者氏名	浜咲 こそえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-22 (技能)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。				

《授業の概要》

医療保険制度、診療報酬請求事務演習Ⅰ＆Ⅱ、医療コミュニケーションの総復習。医療事務技能審査試験の過去問題や、問題集を使用してメディカルクラークの資格取得を目指す。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト1～4」「医療事務講座医科スタディブック1～2」「技能審査問題集」「実技1対応問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

技能審査試験の問題を次の時間内に正確にできる。

実技1 (患者接遇…2問) 50分

学科 (25問) 60分

実技2 (診療報酬請求事務…レセプト点検、外来3問・入院1問) 70分

《授業時間外学修》

事前学修：患者接遇の問題を暗記してくる (30分程度)

事後学修：①学科で誤った問題をテキスト等参考資料で調べてやり直す (15分程度)

②点検問題の訂正方法を復習する (60分程度)

《成績評価の方法》

①平常点 (提出物、確認テスト 授業態度) 70%

②レポート 30%

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題A 学科 (医療事務の一般知識…25問)
2	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題A 学科 (医療事務の一般知識…25問)
3	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題A 実技2 (レセプト点検…外来3問・入院1問)
4	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題A 実技2 (レセプト点検…外来3問・入院1問)
5	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題B 実技1 (患者接遇…2問) 学科 (医療事務の一般知識…25問)
6	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題B 学科 (医療事務の一般知識…25問)
7	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題B 実技2 (レセプト点検…外来3問・入院1問)
8	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題B 実技2 (レセプト点検…外来3問・入院1問)
9	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題C 実技1 (患者接遇…2問) 学科 (医療事務の一般知識…25問)
10	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題C 実技2 (レセプト点検…外来3問・入院1問)
11	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題D 実技1 (患者接遇…2問) 学科 (医療事務の一般知識…25問)
12	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題D 実技2 (レセプト点検…外来3問・入院1問)
13	技能審査試験過去問題	実技1…50分 学科60分 時間を計って実施 自己採点して間違えた箇所を直して復習
14	技能審査試験過去問題	実技2…70分 時間を計って実施 自己採点して間違えた箇所を直して復習
15	まとめ	技能審査試験 (模擬試験) の実施①

《専門教育科目》

科目名	医療管理各論Ⅰ				
担当者氏名	松古 富美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-20 (技能) プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-30 (態度と志向性) 学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

病院という組織が使命を達成し、維持していくために必要な「経営管理」の知識、医療機関としての機能を果たすために専門職を有効に結びつけるため「医療管理」の知識、医療の分化・高度化により現代の病院には専門職種で成り立つ「チーム医療」の知識が必要である。病院を的確に維持、運営していく上で重要かつ基礎的な上記の知識を身につけることが目的であり、診療情報管理や地域連携業務経験を活かした授業である。

《授業の到達目標》

- ① 病院の組織や各部門の経営管理方法などを理解している。
- ② 医療機能を果たすに様々な専門職を有効に結びつける医療管理を理解している。
- ③ 専門職種間で、情報共有し、協働してチーム医療を実践することが医療の質の向上に重要であることを理解している。

《成績評価の方法》

期末試験 (70%)
 平常点 (授業態度、課題など) (30%)
 《学生へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ」 (日本病院会)

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
 事後学修：教科書を参考に、小テスト、復修問題を解き、理解に繋げる

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、積極的に情報収集する必要がある。実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病院の経営管理①	病院の経営管理、経営プロセスについて学ぶ
2	病院の経営管理②	組織と機能について学ぶ
3	病院の経営管理③	管理と組織について学ぶ
4	病院の経営管理④	財務・経営管理について学ぶ
5	病院の経営管理⑤	人事・労務管理について学ぶ
6	病院の経営管理⑥	施設管理について学ぶ
7	医療管理①	医療管理について学ぶ
8	医療管理②	診療部門について学ぶ
9	医療管理③	看護部門について学ぶ
10	医療管理④	医療技術部門、診療協力部門・メディカルスタッフ部門について学ぶ
11	医療管理⑤	教育研究部門、診療管理部門について学ぶ スタッフ機能事務部門について学ぶ
12	医療管理⑥	ライン機能事務部門について学ぶ 施設・機器維持管理部門について学ぶ
13	医療管理⑦	労働安全衛生・環境衛生管理部門について学ぶ ハウスキーピング部門について学ぶ
14	チーム医療	チーム医療とは・チーム医療の主な活動・チーム医療の推進について学ぶ
15	まとめ	1～14のまとめ

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理論 I				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-22 (技能) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。				

《授業の概要》

診療情報管理を実施するための基礎として、診療情報の重要性を理解し、診療情報を適切に取り扱い、責任ある情報管理能力を身につける。

本講では、診療情報管理の意義と役割について系統的に学習するとともに、診療情報管理に関わる法令や諸規則を含め、診療情報の記録方法が機能的にどのような構成やルールをとっているかについて学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 診療に関する情報とは何かが、理解できる。
- ② 診療記録や診療情報管理の歴史について理解できる。
- ③ 診療録や諸記録に関する法規が理解できる。
- ④ 診療情報管理体制や診療記録記載のあり方を理解する。

《成績評価の方法》

期末試験60% 提出物レポートなど20%

アクティブラーニング受講態度20%

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説を行なう。

(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理IV」(日本病院会)

《参考図書》

新医療秘書実務シリーズ「⑥DPCの基礎」「④改訂医療関連法規」「③改定医療情報管理」「②病院のマネジメント」「①医療概論」(建帛社)「病院経営のイノベーション」(建帛社)基礎から学ぶ医師事務作業補助者研修テキスト(永井書店)医師事務作業補助者のための32時間教本(洋学社)その他、必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：医療関係の法律や専門用語について調べる。(15分)

事後学修：前回の重点事項をノートにまとめる。(15分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	診療情報管理の意義と役割-1	①用語の定義 ②診療記録の価値
2	診療情報管理の意義と役割-2	③診療情報管理の役割
3	診療情報管理の歴史-1	①診療記録のルーツ ②診療情報管理
4	診療情報管理の歴史-2	③わが国における診療情報管理
5	診療情報管理と法規等-1	①診療記録の記載と保存についての法規 ②診療記録の電子化に関する法規 ③診療記録の提示に関する法規
6	診療情報管理と法規等-2	④医療事故に伴う法的責任 ⑤診療情報の守秘に関する法規
7	診療情報管理と法規等-3	⑥個人情報穂の保護に関する法律
8	診療情報管理と法規等-4	医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス
9	診療情報管理と法規等-5	個人情報保護法と厚生労働省のガイダンスに基づく病院の対応
10	診療情報管理と法規等-6	診療情報の提供等に関する指針、現状 グループワーク
11	診療記録の記載方法-1	①POS ②フォーカスチャーティング(1)
12	診療記録の記載方法-2	③フォーカスチャーティング(2) ④クリニカル・パス
13	診療情報の記載-1	①診療記録の記載方法
14	診療情報の記載-2	②診療録の基本的な記載事項
15	診療情報の記載-3	③診療記録の種類

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論 I				
担当者氏名	井上 暢子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

臨床医学各論 I では、原因別、部位別などに分類されている各疾患について、その分類の意味とその原因、症状、所見、診断根拠、治療法などの概要を理解し、疾患の適切なICDコーディングにつながる基礎知識を習得することを目的とする。ここでは、感染症の原因となる微生物の知識を押さえ、各感染症の症状・臨床所見・診断方法・治療法を学び、感染症患者の診療記録の内容を理解できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

- ① 感染症を引き起こす微生物にはどのようなものがあるか理解し、感染症の総論を体系的に学ぶ。
- ② 日常診療でよく遭遇する感染症や、社会的に問題となっている感染症については、授業中に詳しく説明するので、理解を深める。
- ③ 医療・福祉分野の専門知識を修得している。

《成績評価の方法》

期末テスト(70%)、小テスト(30%)
各講義の最後に小テストを行う。授業の要点を押さえた問題になっている。期末テストは授業プリント、小テスト、診療情報管理士教育問題集から出題する。《試験のフィードバックの方法》 試験終了後に解説を配付する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	総論	テキストに沿って進めていきます。
2	腸管感染症、結核	テキストに沿って進めていきます。
3	人畜共通細菌性疾患、その他の細菌性疾患	テキストに沿って進めていきます。
4	性的伝播様式をとる感染症、スピロヘータ疾患	テキストに沿って進めていきます。
5	クラミジアによる疾患、リケッチア症	テキストに沿って進めていきます。
6	中枢神経のウイルス感染症、ウイルス肝炎、HIV	テキストに沿って進めていきます。
7	節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱	テキストに沿って進めていきます。
8	皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	テキストに沿って進めていきます。
9	真菌症、原虫疾患、ぜん虫症	テキストに沿って進めていきます。
10	シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	テキストに沿って進めていきます。
11		
12		
13		
14		
15		

《テキスト》

臨床情報管理士テキスト：「診療情報管理 I (基礎・医学編)」4章 臨床医学各論 I 感染症および寄生虫 配付プリント

《参考図書》

「病気がみえる<vol.6>免疫・膠原病・感染症」 医療情報科学研究所

《授業時間外学修》

事前学修：臨床情報管理士テキストを読む。(20分程度)
事後学修：授業で学習した感染症について、授業プリントの復習やインターネットで情報収集を行い理解を深める。(20分)

《備考》

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅶ				
担当者氏名	吉田 信隆				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ○ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

妊娠初期から分娩・産後までと、周産期など最近の話題について講義する。
 周産期情報管理と産科および周産期の病態について、その関連性について解説する。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ」（日本病院会）

《参考図書》

「病気が見える」シリーズ No.10 産科 医療情報科学研究所

《授業の到達目標》

- ①母性を理解できる。
- ②妊娠・分娩の異常について理解できる。
- ③ICD-10に並べられた病気についてその関連を理解できる。

《授業時間外学修》

毎回行う授業の事前学修：約10分
 毎回行う授業の事後学修：約20分

《成績評価の方法》

期末試験の評価（70%）
 出題は教科書にとらわれず、講義内容（配付資料）から行う。
 また、毎授業のカードの提出も評価の対象となる。（30%）
 《試験のフィードバック方法》：期末試験終了後に解説を配付する。

《備考》

女性の生殖機能に関わる講義で有り、良く理解することが大切である。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	正常妊娠-1	妊娠の成立、妊娠に伴う母体変化
2	正常妊娠-2	胎児胎盤系、母体と胎児の管理
3	妊娠の異常-1	妊娠初期異常：妊娠悪阻、流産、異所性妊娠
4	妊娠の異常-2	妊娠中～後期の異常：妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、切迫早産、前期破水など
5	合併症妊娠	婦人科疾患、糖代謝異常、その他
6	母子感染症	風疹、B型肝炎、HIV（エイズ）、その他
7	正常分娩	分娩の3要素、正常分娩の経過、その他
8	分娩の異常	陣痛の異常、産道の異常、その他
9	復習および補習1	ICD-10:第15章 妊娠・分娩・産褥 解説
10	復習および補習2	ICD-10:第16章 周産期に発生した問題 解説
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅷ				
担当者氏名	小山 幹夫				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-12 (知識と理解) 医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21 (技能) 医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-22 (技能) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-30 (態度と志向性) 学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。				

《授業の概要》

身体の形態、運動器に関わる骨、筋肉、関節、皮膚などの疾病について、その特徴、症状、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」
日本病院会
プリント配付

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

筋骨格系に関する疾病について

- ①「特徴」「分類・症状」「検査・診断法」「治療法」などの概要を理解している。
- ②ICD-10に基づく分類の基礎を理解している。
- ③診療録に使用する外国語のうち、特によく使う単語について理解している。

《授業時間外学修》

事前学修
医療知識に関心を高めるため、日頃からメディアを通し情報収集を勧める。(20分程度)
事後学修 授業内容の復習をまとめを使用し行うことを奨励する。(20分程度)

《成績評価の方法》

期末テスト 90%
小テスト 5%
受講態度 5%

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	筋骨格系の疾患総論	総論
2	筋骨格系の疾患各論①	関節リウマチなど
3	筋骨格系の疾患各論②	脊椎関連疾患
4	筋骨格系の疾患各論③	骨関節疾患
5	筋骨格系の疾患まとめ	骨粗しょう症など
6	皮膚および皮下組織の疾患①	膠原病関連疾患①
7	皮膚および皮下組織の疾患②	膠原病関連疾患②
8	皮膚および皮下組織の疾患③	自己免疫性皮膚疾患①
9	皮膚および皮下組織の疾患④	自己免疫性皮膚疾患②
10	皮膚および皮下組織の疾患まとめ	まとめ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	公衆衛生学				
担当者氏名	教員				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-30 (態度と志向性)学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。				

《授業の概要》

公衆衛生学は、地域社会の組織的な努力を通して、地域住民の健康の保持増進や疾病予防などを志向する。社会における現状を学習することにより、公衆衛生学の問題点を知り、その解決への視点を身につける。また、医療概論として、現代医療に至る歴史や各医療分野の特色および医療に携わる者の心得についても学習する。医学学習の基礎知識を身につけると共に社会の中での医療の関わりに対し理解を深めていく。

《授業の到達目標》

- ①医療、医学の成り立ちと発展の歴史を理解している。
 - ②医療関係者として身につけるべき倫理について学び、各自の考えを確立している。
 - ③医療事務に関する各種制度、法律について理解している。
- 《卒業認定・学位授与との関連》
 診療情報管理士として必要な基礎知識を総合的に理解している。

《成績評価の方法》

原則として試験によるが、状況によってはレポートによるものを行う。 1. 期末試験もしくはレポート (70%) 2. 小テスト等 (20%) 3. 授業態度等平常点 (10%)
 《フィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う (試験60分、解説30分)

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I」日本病院会

《参考図書》

北村論「コメディカルのための専門分野テキスト 医療概論」
 中外医学社
 「NEW予防医学・公衆衛生学」南江堂

《授業時間外学修》

事前にシラバスの内容を把握 (チェック) し、概要を予習すること。また、毎回授業の重要事項 (ポイント等) を復讐すること。(30分)

《備考》

医療に関する社会情勢等を新聞・ニュース等で把握することを心掛けること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療と医学、現代医療、EBM	医療の起源と古代医学
2	古代、中世の医学史	医療の起源とその特徴
3	近世の医学史	医療の起源とその特徴
4	日本の医学史	日本における和漢医学と近代医学
5	二十世紀の医学、医療技術	二十世紀の医学、医療技術
6	医学史・医学概論 まとめ	医学史・医学概論 まとめ
7	医の倫理、インフォームド ドコンセント	医の倫理、インフォームド ドコンセント
8	個人情報保護	世界医師会の定昇と個人情報保護
9	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の歴史と現状
10	社会保障制度	社会保障制度全般 (概論)
11	医療制度	医療法及び身分法
12	医療法と医療計画	医療法と医療計画
13	地域保健と公衆衛生	地域保健と公衆衛生及び地域包括ケアシステム
14	予防医学と健康増進	予防医学と健康増進及び健康日本21
15	臨床上問題となる倫理面	医療倫理と診療情報

《専門教育科目》

科目名	薬理学概論				
担当者氏名	東川 史子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-21 (技能)医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。				

《授業の概要》

薬とは何か？薬は体内でどのような働きをするのか？薬物の作用・吸収・分布・代謝・排泄・毒性・相互作用・個人差などについて解説する。

《テキスト》

「系統看護学講座 薬理学」医学書院

《参考図書》

参考プリント配布

《授業の到達目標》

- ①薬物の生体内動態や相互作用について理解している。
- ②代表的な薬物の作用・副作用を習熟している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。(10分)
 事後学修：講義ノートを復習し、理解を深める。(30分)
 レポート作成(180分)

《成績評価の方法》

- 1. 平常点(受講態度等) (20%)
- 2. レポート (30%)
- 3. 試験 (50%)

試験の出題は、講義内容から行う。《学生へのフィードバックの方法》試験終了後に講評する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	概論 1	薬理作用の種類、受容体、薬の投与量と薬理反応など、薬理学の基礎について
2	概論 2	薬物体内動態など、薬理学の基礎について
3	概論 3	生理活性物質など、薬理学の基礎について
4	薬物の生体内動態 1	薬物の吸収・分布・代謝・排泄について
5	薬物の生体内動態 2	薬物の吸収・分布・代謝・排泄について
6	薬物の有効性と安全性	薬物の有効性と安全性について
7	個人差	個人差の因子・テーラーメイド医療等について
8	様々な薬物の作用 1	様々な薬物の作用・副作用について
9	様々な薬物の作用 2	様々な薬物の作用・副作用について
10	様々な薬物の作用 3	様々な薬物の作用・副作用について
11	様々な薬物の作用 4	様々な薬物の作用・副作用について
12	様々な薬物の作用 5	様々な薬物の作用・副作用について
13	様々な薬物の作用 6	様々な薬物の作用・副作用について
14	薬物の相互作用	多剤併用による相互作用および食品と薬物の相互作用について
15	新薬と臨床試験 他	臨床試験のルールおよび臨床検査に及ぼす薬物の影響について

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務演習 I				
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 3-29 (態度と志向性) 社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》

前期「ビジネス実務総論」に引き続き講座です。ビジネス現場で職業人として業務を理解し、実践するための専門的スキルを深めます。演習の授業なので、単に知識習得のみならず、実践することで身に付けることを目指します。ビジネス系検定にチャレンジし、ビジネス実務の定着も目指しています。

《授業の到達目標》

1. ビジネスパーソンとして必要な資質を身につけている
2. ビジネス実務に必要な話し方(敬語)や対応ができる
3. ビジネス文書(メール含)を自分で書くことができる
4. ビジネス現場の交際に関する対処法を理解してできる
5. ビジネス倫理やビジネス法規のポイントを説明できる

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業態度・発表) 40%
2. 課題・小テスト 30%
3. 学期末テスト 30%

〈フィードバックの方法〉

課題や小テストについては講評の時間を設ける

《テキスト》

公益財団法人 実務技能検定協会編「新秘書特講 -秘書検定で学ぶオフィスの常識と心構え-」早稲田教育出版

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド」3級・2級 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「秘書検定パーフェクトマスター」3級・2級 早稲田教育出版

《授業時間外学修》

「ビジネス実務マナー検定」「秘書検定」にチャレンジし、総合力を養うため、毎週の課題があります。

【事前学修】課題を自宅学習する(60分)

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する(30分)

《備考》

ビジネス系検定の内容は幅広く、ビジネス現場で求められる資質や組織の知識などの総合力が問われます。配布プリントは、その都度確実に理解するよう予習・復習が大切。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネス現場演習	サービス活動 (基本行動の立居振舞)
2	ビジネス現場演習	サービス活動 (接遇マナー・電話対応の実習)
3	ビジネス現場演習	表現活動 (慶弔業務、贈答などのビジネスマナー)
4	ビジネス現場演習	表現活動 (会議業務、スケジューリングなど)
5	ビジネス現場演習	情報活動 (ビジネス文書作成業務の実際)
6	ビジネス現場演習	情報活動 (出張業務など)
7	ビジネス現場演習	組織活動 (組織形態や役割の復習)
8	ビジネス現場演習	組織活動 (組織の部門の復習)
9	ビジネスと情報活動	情報の収集、評価、加工・活用、整理・保管の意義や事例 (電子メール WWWの特徴)
10	ビジネスと組織活動	組織の定義と種類 グループダイナミックスの特徴
11	ビジネスと組織活動	チームワークにおける個人の役割 チームの問題解決プロセス
12	ビジネス実務の活動	4つの基幹機能について (オペレーション活動の理解、開発・生産・流通のオペレーション)
13	ビジネス実務の活動	4つの基幹機能について (マーケティング活動の理解、企画と営業部門の位置づけと活動)
14	ビジネス実務の活動	人的資源管理法 (企業が進める教育や能力開発システム)
15	ビジネス実務の活動	コストパフォーマンス (経理財務、決算書の見方、株式市場のキーワード)

《専門教育科目》

科目名	発達心理学Ⅱ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に青年期から老年期までの発達と、発達臨床と支援を中心に学修する。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①生涯発達、ライフサイクルといった観点を理解している。
- ②高齢者の心理学的な特徴を理解している。
- ③発達や情緒面で困難をもつ子どもへの理解・支援に関する基礎知識を持っている。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

- 1. レポート（70%）
 - 2. 講義中の提出物（30%）
- 《課題へのフィードバックの方法》
提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：生涯発達心理学とは？	生涯発達という考え方を学ぶ。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	社会・文化の中での発達	人間の発達における社会・文化適要因について学修する。
3	ライフサイクル	ライフサイクルという発達心理学における重要な概念について考察する。
4	青年期とアイデンティティ	青年期における発達について、アイデンティティというキーワードを軸に考察する。
5	成人前期の発達（1）	成人期前期の発達について概説する。
6	成人前期の発達（2）	成人期前期の発達について、特に現代における女性の発達に焦点をあてて考察する。
7	中年期の発達	中年期（壮年期）の心身の発達について学修する。
8	高齢期の発達（1）：発達課題と特徴	高齢期（老年期）の心身の発達について概説する。
9	高齢期の発達（2）：身体、認知、記憶	高齢期（老年期）の心身の発達について、特に身体、認知機能の発達に焦点をあてて学修する。
10	高齢期の発達（3）：情動、動機づけ	高齢期（老年期）の心身の発達について、特に情動や動機づけの発達に焦点をあてて学修する。
11	高齢期の精神障害	高齢期の精神障害について、特に認知症に焦点をあてて学修する。
12	高齢者への介護について	高齢者の生活を支える介護者・家族の心理について学修する。
13	発達障害児の理解と支援	発達障害について概説し、理解と支援について考察する。
14	児童虐待	今日の児童虐待の問題について概説し、被虐待児の心理的問題について考察する。
15	まとめ	生涯発達の過程および発達臨床について学んだことを振り返る。

《専門教育科目》

科目名	情報管理論				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 			

《授業の概要》

高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。

《授業の到達目標》

1. 情報機器とシステム、ネットワークの活用ができる。
2. システム的な考え方や論理的な思考力、問題解決手法に関する知識を理解している。

《テキスト》

「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成30-31年度版」 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：各章の内容を事前に予習する。(10分程度)

事後学修：各章の章末問題を解く。(20分程度)

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%
 2. 課題提出 20%
 3. 期末試験 60%
- 《学生へのフィードバック方法》 期末テスト後に解説を行う。

《備考》

本講義は1年前期の科目「情報科学」とセットにして履修することが望ましい。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、ITパスポート試験について
2	企業と法務(1)	企業活動、業務の把握
3	企業と法務(2)	資産管理について
4	企業と法務(3)	取引関連法規と標準化
5	経営戦略(1)	経営戦略マネジメントについて
6	経営戦略(2)	技術戦略マネジメントについて
7	システム戦略	システム戦略とシステム企画
8	中間確認テスト	中間確認テストと解説
9	開発技術	システム開発技術とソフトウェア開発管理技術
10	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント
11	サービスマネジメント	サービスマネジメント
12	ITパスポート試験対策(1)	CBT試験模擬(1)
13	ITパスポート試験対策(2)	CBT試験模擬(2)
14	総合確認問題	理解度チェック問題
15	まとめ	期末試験

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシーⅡ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

PCを利用して、情報の収集・整理・分析・活用をするための技能の習得を目的とする。後期は、エクセルの様々な関数や集計機能等を学習した上で、エクセルを利用して数値データを把握、分析、予測する方法、数値データを適切にグラフ等で表現（可視化）する方法等、数値情報を整理活用するためのプロセスを学び、活用能力の向上をめざす。あわせて、操作スキルの向上のために資格試験をめざす。

《授業の到達目標》

1. 表計算検定を取得する（準2級～1級）
2. 数式や関数が適切に利用できる。
3. 数値から現状を把握し、分析できる。
4. 数値を適切なグラフ等を使って表現できる。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、検定受験、提出課題）50%、実技テスト50%で評価する。いずれかの項目が基準に達しない場合、単位は認定されない。
 ≪フィードバック方法≫課題ごとにコメントを返却する。期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	前期復習（EXCEL基礎）
2	エクセル発展1	関数1（ROUND・RANK.EQなど） 関数2（IF）
3	エクセル発展2	3級検定問題
4	エクセル発展3	関数3（AND・OR） 関数4（VLOOKUP）
5	検定対策1	問題集 準2級問題解説
6	検定対策2	問題集 2級解説
7	検定対策3	問題集 問題1・2（準2級または2級）
8	検定対策4	問題集 問題3・4（準2級または2級）
9	検定対策5	問題集 問題5・6・7（準2級または2級）
10	模擬テスト	模擬テスト
11	検定試験・エクセル実技テスト	検定試験及びエクセル実技テストを兼ねます。検定の申し込みしていない人は、2級（または3級）と同等の問題で実力を測定します。
12	数値の把握・分析・予測1	数値データから、その特徴や現状を把握し、分析・予測するためのプロセスを学ぶ。
13	数値の把握・分析・予測2	数値データから、その特徴や現状を把握し、分析・予測するためのプロセスを学ぶ。
14	数値の表現1	数値を最適なグラフ等を用いて表現する方法を学ぶ。
15	数値の表現2	数値を最適なグラフ等を用いて表現する方法を学ぶ。

《テキスト》

「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集 準2級・2級版」日本情報処理検定協会

《参考図書》

「[改訂第3版 ver.2] 基礎からわかる情報リテラシー」奥村晴彦（著）、森本尚之（著） 技術評論社

「日本語ワープロ検定試験模擬問題集」日本情報処理検定協会 ※級ごとに発行されています。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。（30分）
 事後学修：授業で学習したところを再度練習する（30分）
 検定練習：検定試験の問題を解く（60分）
 タイピングを毎日練習する（30分）

《備考》

すでに2級まで取得済の人は、「準1級・1級」問題集を購入し、上位級を受験可能です。個別に相談してください。

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシー演習				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。				

《授業の概要》

日本語ワープロ検定、文書デザイン検定、表計算処理技能検定の資格を取得することを目的としたクラスです。各自の希望により科目と級を決定し、それに向けた練習をします。自分自身で目標を決め、計画的に学習する姿勢が大切です。授業計画の中で、※のついている回は、全員同じ授業となります。

《授業の到達目標》

1. 自分で目標を設定し、計画的に学習し、資格試験に合格できる技術力を身につけている。
2. 資格を取得する。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、提出課題、検定試験への取り組み）80%、検定試験結果（12月）20%で評価する。

《課題へのフィードバック方法》

課題ごとにコメントおよび採点結果を返却する。

《テキスト》

各自の受験科目及び受験級にあわせた解説を配布します。

《参考図書》

「日本語ワープロ検定模擬問題集」日本情報処理検定協会
 「文書デザイン検定模擬問題集」日本情報処理検定協会
 「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集」日本情報処理検定協会

《授業時間外学修》

事前学修：毎日タイピングを練習する（30分）
 事後学修：検定試験のための練習をする（60分）

《備考》

自分の現在の實力にあった目標設定をして、現在よりも確実に上達できるよう頑張りましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	※授業ガイダンス	各検定試験の概要説明、授業の進め方を説明 各自の目標設定
2	※検定解説1	日本語ワープロ2級、準1級、1級の解説
3	※検定解説2	文書デザイン2級、1級の解説
4	※検定解説3	ワープロ準1級・1級、文書デザイン検定に共通の注意事項との解説 各自の目標設定（最終）
5	検定練習	答案作成と添削
6	検定練習	答案作成と添削
7	検定練習	答案作成と添削
8	模擬試験1	模擬試験及び採点（日本語ワープロ検定中心）
9	模擬試験2	模擬試験及び採点（文書デザイン検定中心）
10	検定試験	日本語ワープロ検定、文書デザイン検定
11	検定練習	表計算検定試験のための解説と練習
12	※検定解説4	日本語ワープロ準1級・1級、文書デザイン1級の解説
13	※検定解説5	表計算1級の解説
14	検定練習	表計算、文書デザイン、日本語ワープロの各試験について、2月の試験に向けた練習
15	検定練習	表計算、文書デザイン、日本語ワープロの各試験について、2月の試験に向けた練習

《職業に関する科目》

科目名	医事コンピュータ実務				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13 (知識と理解)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-22 (技能)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。				

《授業の概要》

診療録や伝票から得られた情報から、診療報酬算定対象となる医療行為を抽出、算定の根拠と要件の確認をし、適正な医療費の請求とレセプト作成を心がけなければならない。そのためには、診療録の読解力と診療報酬点数表の解釈が重要になる。医事オペレーターには、より高度な専門知識と正確かつ、迅速な処理能力が求められる。医学・医療、薬学、医療保険制度や診療報酬点数等総合的に理解した医事オペレーターをめざす。

《テキスト》

「医事NAVIⅢ操作テキスト」、「医科カルテ例題集2020」(ケアアンドコミュニケーション)、「医科点数表の解釈令和2年4月版」、「薬効・薬価リスト令和2年4月版」(社会保険研究所)

《参考図書》

「医療者のための保険診療基礎知識」(社会保険研究所)等、講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①医療保険制度や介護保険制度との連携が理解できる。
- ②概ね2年毎の診療報酬改定による新点数表と、算定要件が理解できる。
- ③診療録から医療行為を読み取り、診療報酬点数との関係が理解できる。
- ④診療録を読み取り、迅速に医療費の計算ができる。
- ⑤医事コンピュータの仕組みと入力方法が理解できる。

《授業時間外学修》

- 事前学修
治療の専門用語や医療行為の手順、使用される医療材料や薬剤を覚える。(15分)
- 事後学修
①「医科点数表の解釈」を理解する。(20分)
②各診療区分の医療行為や区分毎の検査名を覚える。(25分)

《成績評価の方法》

- 学科問題 (10%)
レセプト作成 (50%)
受講態度 (40%)
《試験のフィードバック方法》
期末試験後に解説を行なう。(試験60分・解説30分)

《備考》

実務家教員による授業 実務経験：医事業務、診療報酬請求事務、医事統計業務、医事コンピュータ・電子カルテシステム使用による業務及び保守管理。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	令和2年度診療報酬点数表の理解-1	①診療報酬点数のしくみと点数の理解
2	令和2年度診療報酬点数表の理解-2	②診療報酬点数のしくみと点数の理解
3	令和2年度診療報酬点数表の理解-3	③診療報酬点数のしくみと点数の理解
4	令和2年度診療報酬点数表の理解-4	③診療報酬点数のしくみと点数の理解
5	医事コンピュータの基本操作	①自己フォルダー作成(マイデータ保存用) ②システムの起動と終了 ③カルテの読み方の基本
6	外来会計-1	①「外来業務の流れ」の理解 ②外来例題① 患者情報・傷病名・医療行為等の基本登録
7	外来会計-2	外来例題② 会計入力とレセプト点検
8	外来会計-3	外来例題③ 会計入力とレセプト点検
9	外来会計-4	外来例題④ 会計入力とレセプト点検
10	入院カルテ-1	「入院の流れ」の理解、施設基準、患者情報・傷病名について DPC/PDPSの考え方-入院例題①
11	入院カルテ-2	入院例題①の復習 会計入力とレセプト点検、DPC/PDPS変換
12	入院カルテ-3	入院例題② 会計入力とレセプト点検
13	入院カルテ-4	入院例題②の復習 会計入力とレセプト点検、DPC/PDPS変換
14	入院カルテ-5	入院例題③ 会計入力とレセプト点検
15	入院カルテ-6	入院例題③の復習 会計入力とレセプト点検、DPC/PDPS変換

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	教養基礎				
担当者氏名	水野 敦子、鈴木 理、丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-10 (知識と理解)生活する上で必要な社会常識を理解している。				

《授業の概要》

社会人としての教養とマナーを修得するため、中学・高校で学んだ知識から、社会に出て行くために必要な基礎的な教養までを勉強する。国語、数学、英語、理科、社会、時事問題の6教科を扱い、授業は学生が問題を解き、それを教員が解説していくという形式で進めていく。就職試験、公務員試験、四年制大学への編入試験を目指す学生はもちろんのこと、社会人としての一般常識を学びたいと思う学生も受講してほしい。

《授業の到達目標》

①漢字、熟語、故事成語など国語の基本的な語彙力を習得している。②数学的知識の応用ができる。③理科一般の基本的な知識を習得している。④英語の文法や語彙・熟語の基本的な知識を習得している。⑤英語の国際時事略語や英語表示などを理解している。

《成績評価の方法》

- 小テスト 30%
 - 期末試験 70%
- 《試験へのフィードバック方法》
 期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学修》

- 事前学修：
 ・課題について調べる。(30分)
 ・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、TVニュースを見る。(30分)
 事後学修：課題をもう一度やる。(20分)

《備考》

3人の教員が5回ずつ担当するが、担当順がシラバスと変わることがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	国語語彙問題①	言語能力問題
2	国語語彙問題②	四字熟語①
3	国語語彙問題③	四字熟語②
4	国語語彙問題④	現代社会用語
5	国語語彙問題⑤	第1回～第4回のまとめ、小テスト
6	数学①	虫食い算、数列
7	数学②	仕事算、水槽算
8	数学③	旅人算、通過算、流水算
9	理科①	物理、化学、生物、地学
10	理科②	第6回～第9回のまとめ、小テスト
11	英語①	国際時事略語、英語のことわざ、英語表示
12	英語②	ビジネス英語、カタカナ英語
13	英語③	英文法
14	英語④	会話表現、語彙
15	英語⑤	第11回～第14回のまとめ、小テスト

科目名	社会学				
担当者氏名	相田 美穂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

社会学は、身の回りの身近な事柄を対象とするものです。講義でとりあげるのは、おたくを中心としたサブカルチャー、恋愛、性の商品化、ウソの4つです。講義の目的は、「社会学でのものの見方」から身近な事柄を見直すことで、今までと異なった見方で社会の仕組みを考え、自分の行動を選択できるようになるということです。なお、講義は受講者の皆さんの関心や理解に応じて進めていきます。

《授業の到達目標》

- ① 講義を通じて学んだ「社会学のものの見方」を通じて、身近な事柄を捉えることができる。
- ② 身近で起こっている事柄に関心を持つことができる。
- ③ 身近な事柄について、「社会学のものの見方」を通して問題を発見することができる。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、提出物と講義への参加（50%）を基準に、総合的に評価する。

《フィードバックの方法》

期末レポートおよび提出物について、講評の時間または講義内で解説を行う。

《テキスト》

中根光敏『浮気な心に終わらない旅を——社会学的思索への招待』松籟社

《参考図書》

講義内で指示します。

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：次回講義までに、テキストの該当する章に芽をとoshi、わからないことは調べたり、質問できるように準備をする。
 事後学修（60分）：講義で学んだ章を整理し、身近な事柄との関連について自分の考えをまとめる。

《備考》

講義では映画やテレビ番組などの視聴覚資料を用います。受講者の理解や関心に応じて、シラバスの内容を変更する場合や、グループ学習を行うことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	講義ガイダンス	講義の目的、進め方、履修上の注意事項について。
2	サブカルチャーとは	サブカルチャーをめぐる考え方を学習します。
3	おたくイメージ	おたくイメージを、映像資料を通じて読み解きます。
4	おたくイメージの変遷	おたくイメージの形成と移り変わりについて、資料を通じて学びます。
5	おたくをめぐるジェンダー	おたくイメージとジェンダー（性別）のかかわりについて考えます。
6	恋愛の定義	恋愛を社会学のものの見方で捉えるための定義づけをします。
7	恋愛する資格	恋愛する資格とは何かを考えていきます。
8	セックスとジェンダー	性をめぐる考え方を学びます。
9	性をめぐる社会のまなざし	映像資料を用いて、性が社会の中でどのように捉えられているのかを読み解きます。
10	性の商品化をめぐる法律	性の商品化を規制する法律が、性商品の多様化を生み出した経緯を学びます。
11	性商品の消費者／労働としての性	商品化された性の買い手と売り手のそれぞれが置かれている状況について学びます。
12	「ウソつき」とはどんな人？	ウソはよくない／うまくウソをつけ、という考え方が、それぞれどこから生じているのか考えます。
13	ウソは解釈によって生まれる	ウソについて、だます人／だまされる人／観察者の三つの視点から捉えていきます。
14	ウソが社会をつくる	信じるからだまされる／だまされるから社会が作られる、という考え方を学びます。
15	実社会の中でのウソ	実社会で起こったウソをめぐる現象について、これまで学習した内容を踏まえて考えます。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅡ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-10 (知識と理解)生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。				

《授業の概要》

この授業では、自己の適性に合った卒業後の進路選択の方法、就職活動の仕方や試験対策、就職の心構えなどを学ぶ。卒業後の進路は、就職、4年制大学への編入、専攻科や専門学科への進学など多岐にわたっている。授業を通して、で自分が進みたい進路や自分の適性に合った業種・職種を早く見つけ、個々の目的に向かって進んでいただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。(15分)
 事前学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。(1時間程度)

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%
 《課題へのフィードバックの方法》
 レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに、今期の目標、キャリアチャートなどを入力する。
2	自分と向き合う	自分と向き合い、自分自身について考える。
3	女性の体と病気	生涯を通し女性として知っておきたい体と病気の基礎知識とその予防や対処について医療現場で活躍されている女性医師の話を通して学ぶ。
4	(就職対策講座①) 就職ガイダンス	次年度本格化する就職に向けた準備として「就職のてびき」の内容に基づいた就職活動に向けてのポイントを就職指導部担当者より学ぶ。
5	(就職対策講座②) 環境ホルモンとその影響	現在自分を取り巻く地球環境がどのようになっているのかについて、特に環境ホルモンとその影響について専門の研究者から学び自分が今後出来ることは何かについて考える
6	(就職対策講座③) 国際情勢を知る	現在自分を取り巻く国際情勢がどのようになっているのかに関心を持ち国際貢献とは何かについて理解するポイントを外務省担当職員から学ぶ。
7	(就職対策講座④) 国内情勢と新聞の読み方	現在自分を取り巻く国内情勢がどのようになっているのかに関心を持ち国内の政治や経済などに理解を深めるポイントを新聞の読み方と共に新聞記者経験者から学ぶ。
8	(就職対策講座⑤) 就職のための身だしなみ	就職活動に大切な第一印象の対策として重要なスーツの着こなしやヘアメイクの専門家の方から実践的に学ぶ。
9	(就職対策講座⑥) 自己分析① 職務適性テスト	適性診断テストの実施を通して就職活動を意識し、今後の自己の方向について改めて考えるきっかけとする。
10	(就職対策講座⑦) 自己分析② 自己PR	自己分析①で行った適性診断テストの内容や多方面からの自己の振り返りを行い、自己理解について考える。
11	(就職対策講座⑧) 人との出会いを考える	ヴィオラ奏者から、実際に演奏を聴き、留学や国内外でのコンサートを通じて世界中の方との出会いと、人間関係の大切さを経験談から学ぶ。
12	(就職対策講座⑨) イマジマップ 自分のビジョン	現状の自分を知り、そこからキャリアやライフビジョンをイメージしていく力をイメージマップを作りながら実践的に学ぶ。
13	(就職対策講座⑩) 就職活動体験報告	就職活動を終え内定を得た各学科コースの2年生から就職活動の現状やポイント、又反省点などについての発表を聞き、今後の就職活動について学ぶ。
14	(就職対策講座⑪) インターネットによる就職活動	次年度の就職活動に向けインターネットによる就職活動の方法を学ぶ。(情報センター 章先生)
15	コミュニケーションアワー(学科②)	期末試験対策や、休暇中の学生生活にかかわる諸連絡および新2年生における学生生活と学修習慣について学ぶ。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	日本事情Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。				

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生のための授業である。「日本事情Ⅰ」に引き続いて、日本に関するさまざまな事情を学び、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておき、関連した資料を読む。(30分)
事後学修：授業で配付されたものを復習する。(20分)

《成績評価の方法》

- 1. レポート(提出状況、内容) 70%
- 2. 平常点(受講態度) 30%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートは担当者がチェックして返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関わることについて説明する。
2	異文化間コミュニケーション①	留学生自身が日本社会で不思議だと思ったことから、異文化間コミュニケーションについて考える。
3	異文化間コミュニケーション②	留学生自身が日本社会で不思議だと思ったことから、異文化間コミュニケーションについて考える。
4	日本の健康事情①	日本人の健康問題における現状を解説する。
5	日本の健康事情②	日本人の健康問題における現状を解説する。
6	こころのケア①	留学生のこころのケアについて考える。
7	こころのケア②	留学生のこころのケアについて考える。
8	日本の病院	日本の病院の制度などを解説する。
9	日本のIT事情	日本のIT化の現状を解説する。
10	日本の伝統工芸	日本の伝統工芸について解説する。
11	日本の伝統文化	能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説する。
12	日本の伝統食	日本古来からの伝統食を解説する。
13	日本人の食生活	日本人の食生活を解説する。
14	日本のポップカルチャー	日本のアニメやポップスなどのポップカルチャーについて解説する。
15	まとめ	受講した感想などについて話し合う。

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-10 (知識と理解)生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。				

《授業の概要》

前期に引き続き、スポーツ用品メーカーを舞台にしたテキストを学び、平行してNHKラジオの5分間番組「世界へ発信！ニュースで英語術」の時事ニュースを自宅学習用に使用する。英語でのコミュニケーション能力を身につけるためには、地道な努力が必要であるので、授業での様々な活動に積極的に参加し、課題を着実にこなしてもらいたい。

《テキスト》

Robert Hickling, Misato Usukara 「English First Basic」 (金星堂)

《参考図書》

井上謙一他「続 授業で使える英語の歌 20」 (開隆堂)
その他の参考図書については適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①英語の文法を理解し、英語と日本語の違いが分かるようになる。
- ②簡単な日常英会話ができるようになる。
- ③自分のことを英語で表現できるようになる。
- ④英語時事ニュースの内容がわかるようになる。

《授業時間外学修》

事前学修 (30分) : 教科書を読み、知らない単語の意味を調べる。NHKラジオ「世界へ発信！ニュースで英語術」を聞き、問題を解く。
事後学修 (30分) : 課題をする。授業でやった部分を音読し、単語を覚える。

《成績評価の方法》

- 1. 期末試験 50%、2. 中間試験 30%、3. 課題 20%
- 《試験のフィードバック方法》
期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《備考》

NHK「世界へ発信！ニュースで英語術」は月～金曜日まであり、土・日は5日分が放送される。番組のウェブサイトもあり、パソコン、スマホ、タブレット端末でも勉強できる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	Unit 8 助動詞①	助動詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
2	Unit 8 助動詞②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。英語の歌を聴いて助動詞について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」①
3	Unit 9 to不定詞・動名詞①	to不定詞・動名詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」②
4	Unit 9 to不定詞・動名詞②	to不定詞・動名詞について、リーディングとライティングをしながらを学び、英語の歌でto不定詞・動名詞について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」③
5	Unit 10 現在完了①	現在完了について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」④
6	Unit 10 現在完了②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学び、英語の歌で現在完了について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑤
7	中間試験 Unit 11 接続詞①	中間試験を行う。 接続詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
8	Unit 11 接続詞②	接続詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。英語の歌を聴いて接続詞について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑥
9	Unit 12 比較①	比較表現について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑦
10	Unit 12 比較②	比較表現について、リーディングとライティングをしながらを学び、英語の歌で比較表現について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑧
11	Unit 13 受動態①	受動態について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑨
12	Unit 13 受動態②	受動態について、リーディングとライティングをしながらを学び、英語の歌で受動態について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑩
13	Unit 14 分詞 (現在分詞・過去分詞) ①	分詞による修飾表現について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑪
14	Unit 14 分詞 (現在分詞・過去分詞) ②	分詞について、リーディングとライティングをしながらを学び、英語の歌で分詞について確認する。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑫
15	Unit 15 関係代名詞・関係副詞	関係詞について、リスニング、ライティング、リーディング、会話練習をしながら学ぶ。「世界へ発信！ニュースで英語術」⑬

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	劉 鳴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。				

《授業の概要》

引続き一歩踏み込んだ勉強をしましょう。発音を練習しながら、日常生活に使われる言葉を中国語で表現してみましょう。基本動詞、形容詞などの使い方を習得しましょう。授業中はまたビデオなどで中国事情を紹介したりして、楽しい授業をしていきましょう。

《テキスト》

日中学塾編「わかりやすい入門中国語」(株)広瀬印刷

《参考図書》

授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① テキストの会話文が正しい発音で読むことができる。
- ② 習った文型で簡単な文を作ることができる。
- ③ 簡単な自己紹介と挨拶ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業の前に新しい内容を予習すること。(20分程度)
 事後学修：習った中国語の言葉を使って会話を練習すること。(60分程度)

《成績評価の方法》

- ① 平常点(小テスト、授業課題など) 30%
 - ② 中間試験30%、期末試験40%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する
 試験60分、解説30分

《備考》

中国語を覚えるため、日常会話の練習が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	歳の聞き方	「あなたはおいくつですか？」
2	数字と家族の呼び方	「おじいちゃんの年は？」
3	時刻の言い方	「今日は何曜日ですか？」
4	形容詞の使い方	「今日の天気はいかがですか？」
5	動作の表現	「あなたは毎日何時に起きますか？」
6	所在の表現	「あなたは家にいますか？」
7	完了の表現	「どこに行きましたか？」
8	中間まとめ	1～7回の授業内容のまとめ、中間試験
9	命令、請求の表現	「どうぞ、お入りください」
10	禁止命令の表現	「行かないでください」
11	お金の言い方	「これはいくらですか？」
12	可能の表現	あなたは運転できますか？」
13	受身の表現	「私は先生にしかったです。」
14	使役の表現	「お父さんは遊びに行かせてくれません。」
15	期末まとめ	9～14回の授業内容のまとめ

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬請求事務演習 I				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。				

《授業の概要》

我が国の診療報酬は点数単価方式とあって、診療料、投薬料、注射料など診療行為ごとに点数が定められています。これらの点数は、診療報酬点数表としてまとめられています。この授業では、診療行為ごとに定められた点数の算定方法と診療報酬明細書への記載要領、明細書の点検を学習します。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト3・・・診療報酬点数算定」「テキスト4・・・診療報酬明細書」「スタディブック1・・・慣用点数早見表」「スタディブック2・・・診療報酬点数表」「基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ① 点数の算定方法・算定条件を理解している。
- ② 薬剤料、特定保険医療材料料(酸素等)の計算ができる。
- ③ 診療報酬明細書の記載要領を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各診療行為について、冒頭の学習内容に目を通しておくこと。(10分程度)
 事後学修：①確認テストの復習(10分程度)
 ②基礎問題集の問題を、テキスト等参考資料を調べながら解く(20分程度)

《成績評価の方法》

- ① 期末試験 70%
- ② 平常点(授業態度 確認テスト 提出物) 30%

《試験のフィードバック方法》

確認テスト：返却時に解説(10分程度)
 期末試験：試験終了後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	初診料 再診料 外来診療料	初診料 再診料 外来診療料 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
2	投薬	薬剤料 調剤料 処方料 調剤技術基本料 処方せん料 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
3	注射	薬剤料 注射実施料 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
4	処置 1	一般処置 救急処置 皮膚科処置 泌尿器科処置 産婦人科処置 眼科処置 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
5	処置 2 リハビリテーション	耳鼻咽喉科処置 整形外科的処置 栄養処置 ギプス リハビリテーション (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
6	精神科専門療法 放射線治療 手術	精神科専門療法、放射線治療 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題 手術点数の検索 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
7	輸血 麻酔	保存血液輸血、自家採血輸血、自己血貯血、自己血輸血 保存血液代 麻酔、神経ブロック (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
8	検体検査 1	採取料 検体検査判断料 検体検査実施料…尿・糞便等検査、血液検査 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
9	検体検査 2	検体検査実施料…生化学的検査 1 生化学的検査 2 免疫学的検査 微生物学的検査 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
10	生体検査 1	呼吸循環機能検査等 超音波検査等 監視装置による諸検査 脳波検査等 神経・筋検査 耳鼻咽喉科科学的検査 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
11	生体検査 2	眼科学的検査 負荷試験等 内視鏡検査 その他の検査 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
12	病理診断 入院料	病理診断・判断料 病理標本作製料 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題 入院料、入院時食事療養費 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
13	画像診断	エックス診断料 コンピュータ断層撮影診断料 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
14	医学管理	特定疾患療養管理料 特定疾患治療管理料 その他の医学管理料(診療情報提供料、薬 剤情報提供料) (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題
15	在宅医療	在宅患者診療・指導料 在宅療養指導管理料 (算定方法、明細書の記載要領と点検) 練習問題

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅱ				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。				

《授業の概要》

診療報酬請求事務演習Ⅰ(点数表の算定)で学習したことを基にして、カルテと診療報酬明細書を突き合わせて点検を行う。誤りを発見できる眼を養っていく。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト3…診療報酬点数算定」「テキスト4…診療報酬明細書」「スタディブック1…慣用点数早見表」「スタディブック2…診療報酬点数表」「基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

①診療報酬明細書(レセプト)の記載要領を理解し、迅速かつ正確な点検(誤りの発見)ができ、さらに正しく訂正することができる。

《授業時間外学修》

事前学修:スタディブック1の各診療行為点数の参照ページを確認しておくこと(10分程度)
 事後学修:①確認テストの復習(10分程度)
 ②授業中に実施した点検問題の間違い個所の復習(20分程度)

《成績評価の方法》

①期末試験 70%
 ②平常点(授業態度、確認テスト、提出物) 30%

《備考》

《試験のフィードバック方法》

確認テスト:返却時に解説(5分程度)
 期末試験:試験終了後に解説を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	明細書点検	医事システムにおける保険請求 点検にあたって
2	明細書点検 基礎(外来)	カルテとの照合(外来) 外来の点検手順 点検ポイント
3	明細書点検 基礎(入院)	カルテとの照合(入院) 入院の点検手順 点検ポイント
4	明細書点検 カルテ1	カルテとの照合(外来) 上書き 外来栄養食事指導料 生化学的検査 検査の重複算定 練習問題
5	明細書点検 カルテ2	カルテとの照合(外来) 特定薬剤治療管理料 投薬(外用薬、特定疾患処方加算) 検査 練習問題
6	明細書点検 カルテ3	カルテとの照合(外来) 時間帯の加算 薬剤情報提供料 整形外科の処置 画像診断 緊急時の加算 練習問題
7	明細書点検 カルテ4	カルテとの照合(外来) 在宅自己注射指導管理料 耐糖能精密検査と含まれる検査 練習問題
8	明細書点検 カルテ5	カルテとの照合(外来) 外来診療料 悪性腫瘍特異物質治療管理料と腫瘍マーカー 病理 練習問題
9	明細書点検 カルテ6	カルテとの照合(外来) 6歳未満のカルテ 休日加算 手術 ギプス 練習問題
10	明細書点検 カルテ7	カルテとの照合(入院) 即日入院 届出医療機関の時間帯の加算 手術料 緊急時の加算 練習問題
11	明細書点検 カルテ8	カルテとの照合(入院) 食事療養費 薬剤管理指導料 手術時の注射実施料 生(I)入院時初回加算
12	明細書点検 カルテ9	明細書のみでの点検(外来)…点検要領、点検手順、明細書の訂正 てんかん指導料 2種類の特定薬剤治療管理料 熱傷処置
13	明細書点検 カルテ10	明細書のみでの点検(入院) 即日入院での初診料算定 食事療養費 検査の算定もれ
14	まとめ①	技能審査試験(実技2…レセプト点検)の過去問題を実施
15	まとめ②	技能審査試験(実技2…レセプト点検)の過去問題を実施

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)
 ボランティア活動時間 (70%)
 《成績のフィードバック方法》
 活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介
 「ボランティアのすすめ (基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)
 活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。
 事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		